

2018 年度(対象年度:2017 年度)自己点検・評価シート

自己評価組織	アイソトープセンター
--------	------------

基準 11 大学独自の評価項目

1. 点検・評価結果 < 評定 >

自己評価欄に「A：適切に取り組んでいる」「B：概ね取り組んでいる」「C：改善すべき点がある」「D：今後取り組んでいく」の4段階で記入してください。

項目 No.	自己点検・評価項目	自己点検・評価の視点	自己評価
1110	研究組織において、計画的に研究活動を推進していますか。	(1)研究組織(研究所、研究系センター等)において、設置目的に沿った研究推進を計画的に進めていますか。 ・年度重点目標の設定	A
1120	管理運営組織および教育研究組織において、持続的に業務内容の点検を行っていますか。	(2)委員会活動の検証 ・開催、および議事録作成に関する手続きは、適切に行っていますか。	A

2. 自己点検・評価

対象年度における組織の状況を自己点検・評価し、その内容を、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて「自己点検・評価項目」毎に具体的に説明してください。

現状、「何を」規定または実施していて、「いつ」「どの会議で(誰が)」「どのように(指標・方法)」検証を行い、「どのように(基準)」自己点検していますか。	
当センターは、放射線管理区域と放射線業務従事者について、放射線障害防止法および関連法令、中部大学放射線障害予防規程、中部大学アイソトープセンター放射線障害予防規程に基づき安全に管理・維持することが使命である。放射線安全管理担当者および放射線取扱主任者が毎月安全点検と記録を行い[1110a]、2018年2月にアイソトープセンター放射線安全委員会において管理状況を報告し[1120a]、これを委員が検証して自己評価を行い議事録に記録した[1120b]。これら報告と自己評価について、2018年3月に中部大学放射線安全委員会に報告した。さらに2018年5月、放射線管理状況について国の原子力規制委員会に報告した[1110b]。	
長所・特色 <<箇条書き>> *先駆性や独自性があるもの、有意な成果がみられるもの、他の組織の範となるもの	
項目 No.1110	法令・規程を遵守して管理を行い、実験環境を提供しつつも放射線被曝事故や汚染事故がゼロであったことが、当センターとしての最大の成果である。
項目 No.1120	2013年には国の立入検査を受け、管理状況が適切であることが確認されたが、2017年度も同水準の委員会活動により管理状況の点検と自己評価を適切に実施した。
課題事項 <<箇条書き>> *向上すべき点、改善すべき点	
項目 No.1110・1120	設置から17年が経過し、施設設備の老朽化が問題である。これまでも深夜を含め度々急な故障が発生したことから、深夜や授業中、出張中等に緊急事態が発生した場合に備え、対応可能な教員を複数配置しておく必要がある。
項目 No.	

3. 向上・改善に向けた取り組み

向上・改善に向けた取り組みについて、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて具体的に説明してください。

<向上・改善の進捗状況>

対象年度における取組 *成果の有無を問わない	
1.	施設設備の経年劣化により発生した不具合のうち、法令に関わる事案については逐次対処した。2017年度は、入退室システム調整、排水β線モニタ修理、排水槽水位計の調整と交換、排気γ線モニタ修理を予算内で実施した[1120a]。費用面から全機器の予防的更新は困難であるため、今後不具合の都度対応予定である。
2.	より高度なセキュリティ確保が国から求められる見通しであったため、法令改正に先だって当センター入口扉の鍵を電子式ロックに交換した[1120a]。
3.	放射性物質を扱う実験環境を提供することに止まらず、当センターでは放射線や放射性物質の知識を普及させるため毎年講義を行ってきた。2017年春学期に応用生物学部共通の科目として「放射線安全管理学」(受講者数114名)を実施した[1120a]。

<今後の向上・改善計画>

項目 No.	課題事項と向上・改善方策 (到達目標を含む)
1110・1120	発生時期が予想できない大地震や法令対応機器の不具合に備え、非常時の運用方法や業務分担を検討し、安全管理体制を強化する。

4. 根拠資料

項目 No.	根拠資料記号	提出区分	根拠資料の名称
1110	a	B	平成29年度 維持管理簿 ほかX種類の帳簿
1110	b	B	平成29年度 管理状況報告書
1120	a	A	平成29年度 中部大学アイソトープセンター 活動記録
1120	b	A	平成29年度 中部大学アイソトープセンター放射線安全委員会 議事録

提出区分 … A：本シートと一緒に提出する資料 B：現部署で保管

2018 年度(対象年度:2017 年度)自己点検・評価シート

自己評価組織	実験動物教育研究センター
--------	--------------

基準 11 大学独自の評価項目

1. 点検・評価結果 < 評定 >

自己評価欄に「A：適切に取り組んでいる」「B：概ね取り組んでいる」「C：改善すべき点がある」「D：今後取り組んでいく」の4段階で記入してください。

項目 No.	自己点検・評価項目	自己点検・評価の視点	自己評価
1110	研究組織において、計画的に研究活動を推進していますか。	(1)研究組織(研究所、研究系センター等)において、設置目的に沿った研究推進を計画的に進めていますか。 ・年度重点目標の設定	B
1120	管理運営組織および教育研究組織において、持続的に業務内容の点検を行っていますか。	(2)委員会活動の検証 ・開催、および議事録作成に関する手続きは、適切に行っていますか。	A

2. 自己点検・評価

対象年度における組織の状況を自己点検・評価し、その内容を、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて「自己点検・評価項目」毎に具体的に説明してください。

現状、「何を」規定または実施していて、「いつ」「どの会議で(誰が)」「どのように(指標・方法)」検証を行い、「どのように(基準)」自己点検していますか。	
1110 毎年5月に研究推進事務部あて提出する事業計画に年度重点目標を記載し、それに基づいて研究推進を行っている。また、秋にセンター所属教員の翌年度の研究について検討し、特別研究費(助教、教育技術員)および科学研究費(教授、助教)の申請を行っている。	
1120 毎年3月に定例の動物実験委員会を開催している。また、昨年度は11月に日本実験動物委員会の外部検証を受けたため、それに向けて毎月職員間で管理体制の整備に向けて議論を行った。その他、利用者の動物実験計画書の提出時には動物実験委員会にて審査を行っている(年間10~20回程度)。また、昨年度は2回、実験動物教育研究センター運営委員会を開催した。	
それぞれの会議について、会議開催後に議事録を作成し、各委員に周知した後、適宜利用者に公表している。	
長所・特色 <<箇条書き>> *先駆性や独自性があるもの、有意な成果がみられるもの、他の組織の範となるもの	
項目 No.1110	マウス受精卵のエレクトロポレーション法によるゲノム編集技術を世界でも早く取り入れた。
項目 No.1120	昨年度11月に日本実験動物委員会の外部検証を受け、かなり高い評価を得た。
課題事項 <<箇条書き>> *向上すべき点、改善すべき点	
項目 No.1110	ゲノム編集技術の効率化
項目 No.1120	動物実験委員会に関する外部検証の結果、指摘事項については2017年度中に対応済みであるが、助言等を受けた事項に対する対応については未対応である。 職員の劣悪な作業環境の改善。

3. 向上・改善に向けた取り組み

向上・改善に向けた取り組みについて、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて具体的に説明してくだ

さい。

<向上・改善の進捗状況>

対象年度における取組 *成果の有無を問わない
<p>2017年11月28日、「公益社団法人日本実験動物学会」による動物実験に関する外部検証を実施し、本学の動物実験の実施体制については適切であると評価されたが、動物実験取扱規程の一部文言修正の指摘と情報公開の項目追加について助言を受けた。あわせて教育訓練について、人獣共通感染症に関する訓練実施の検討を勧められた。これを受け、指摘事項については対処し、助言及び検討を進められた事項については引き続き検討し、今後改善に向けて対応していくこととした。</p> <p>職場の労働環境改善の為に施設課から大型空気洗浄機を導入して、ある程度改善した。</p>

<今後の向上・改善計画>

項目 No.	課題事項と向上・改善方策 (到達目標を含む)
No.1110	ゲノム編集技術の効率化
No.1120	外部検証で指摘された動物実験取扱規定と情報公開について、より充実させる。情報公開の項目追加及び人獣共通感染症に関する訓練を含む教育訓練の実施フォローを行う。

4. 根拠資料

項目 No.	根拠資料記号	提出区分	根拠資料の名称
1110	a	A	平成29年度特別研究費成果報告書 (Iwata)
1110	b	A	平成29年度特別研究費成果報告書 (nagahara)
1110	c	A	生命健康科学研究所_紀要 (報告) 岩田他
1120	a	A	H29 第1回 動物実験委員会議事録
1120	b	A	動物実験に関する外部検証結果報告
1120	c	A	2017-01 実験動物センター運営委員会議事録 (動物) _20171002 (持ち回り)
1120	d	A	2017-02 実験動物センター運営委員会議事録 (動物) _20171002 (持ち回り)
1120	e	A	H29 活動状況等報告 (実験動物教育研究センター) _180426
1120	f	A	2017年度事業計画・予算案様式 (課題対応研究センター群) 実験動物センター
1120	g	B	動物実験計画書審査議事録
1120	h	B	各利用者の自己点検票および研究成果報告書

提出区分 … A : 本シートと一緒に提出する資料 B : 現部署で保管

2018 年度(対象年度:2017 年度)自己点検・評価シート

自己評価組織	天文台
--------	-----

基準 11 大学独自の評価項目

1. 点検・評価結果 < 評定 >

自己評価欄に「A：適切に取り組んでいる」「B：概ね取り組んでいる」「C：改善すべき点がある」「D：今後取り組んでいく」の4段階で記入してください。

項目 No.	自己点検・評価項目	自己点検・評価の視点	自己評価
1110	研究組織において、計画的に研究活動を推進していますか。	(1)研究組織(研究所、研究系センター等)において、設置目的に沿った研究推進を計画的に進めていますか。 ・年度重点目標の設定	A
1120	管理運営組織および教育研究組織において、持続的に業務内容の点検を行っていますか。	(2)委員会活動の検証 ・開催、および議事録作成に関する手続きは、適切に行っていますか。	B

2. 自己点検・評価

対象年度における組織の状況を自己点検・評価し、その内容を、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて「自己点検・評価項目」毎に具体的に説明してください。

現状、「何を」規定または実施していて、「いつ」「どの会議で(誰が)」「どのように(指標・方法)」検証を行い、「どのように(基準)」自己点検していますか。	
天文台の目的、活動内容、運営方法などを定めた中部大学天文台規定に基づき、天文台運営委員会を平成29年度は29年4月、7月と30年2月の3回開催し、天文台の教育・研究及び地域貢献に関する活動計画と活動実績について審議し、活動目的とその達成状況を検証している。また、研究戦略部門に年度ごとの事業計画の提出と活動状況報告を行い、研究戦略部門研究支援会議においてそれらを報告し、了承を得ている。自己点検の基準は、特に作成していないが、上記の会議における審議が点検評価の方法、基準に相当する。	
長所・特色 << 箇条書き >> *先駆性や独自性があるもの、有意な成果がみられるもの、他の組織の範となるもの	
項目 No. 1110(1)	観望会など活発な地域連携・貢献活動を行っている。
項目 No. 1110(1)	理系のみならず文系も含めた全学的な授業に活用されている。
課題事項 << 箇条書き >> *向上すべき点、改善すべき点	
項目 No. 1110(1)	ホームページの充実等による学内外への情報発信 研究活動の更なる活性化
項目 No. 1120(2)	天文台所員全員による情報共有と意見交換を通じた日常的かつ持続的な業務の見直しと改善 天文台運営委員会、WG 会議等の議事録の作成と保存

3. 向上・改善に向けた取り組み

向上・改善に向けた取り組みについて、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて具体的に説明してください。

< 向上・改善の進捗状況 >

対象年度における取組 *成果の有無を問わない
日常的には、天文台所員への一斉メールによる情報共有と意見交換を行い、教育、研究、地域連携活動を実施し、その振り返りを通じてそれらの活動の効果検証と改善を図っているが、その過程を取りまとめて記録し、活動全体を「見える化」するには至っていない。年度末の天文台運営委員会で、当該年度の活動状況を審議して活動を点検評価したうえで、次年度以降の活動計画を立てているが、その実施体制は必ずしも十分とは言えない。

<今後の向上・改善計画>

項目 No.	課題事項と向上・改善方策（到達目標を含む）
1110(1)	ホームページ等の充実により、学内外への情報発信を活性化する。 天文台所員の研究活動について、学外との共同研究も含めて更なる活性化とその成果の情報発信を図り、外部研究資金の獲得につなげる。
1120(2)	メールによる情報共有と意見交換の記録を取りまとめて保存するとともに、天文台運営委員会及びWG会議等の議事録をしっかりと作成する。天文台運営に関わる所員を増員し、実施体制の充実を図る。日常的な情報共有、意見交換の場を適時設定する。

4. 根拠資料

項目 No.	根拠資料記号	提出区分	根拠資料の名称
1110(1)	a	A	中部大学天文台規程
1110(1)	b	A	平成 29 年度天文台活動状況等報告
1110(1)	c	A	平成 30 年度天文台事業計画・予算案
1120(2)	d	A	平成 29 年度第 1 回天文台運営委員会配布資料及び議事メモ
1120(2)	e	A	平成 29 年度第 2 回天文台運営委員会配布資料及び議事メモ
1120(2)	d	A	平成 29 年度第 3 回天文台運営委員会配布資料及び議事メモ

提出区分 … A：本シートと一緒に提出する資料 B：現部署で保管

2018 年度(対象年度:2017 年度)自己点検・評価シート

自己評価組織	中部高等学術研究所
--------	-----------

基準 11 大学独自の評価項目

1. 点検・評価結果 < 評定 >

自己評価欄に「A：適切に取り組んでいる」「B：概ね取り組んでいる」「C：改善すべき点がある」「D：今後取り組んでいく」の4段階で記入してください。

項目 No.	自己点検・評価項目	自己点検・評価の視点	自己評価
1110	研究組織において、計画的に研究活動を推進していますか。	(1)研究組織(研究所、研究系センター等)において、設置目的に沿った研究推進を計画的に進めていますか。 ・年度重点目標の設定	C
1120	管理運営組織および教育研究組織において、持続的に業務内容の点検を行っていますか。	(2)委員会活動の検証 ・開催、および議事録作成に関する手続きは、適切に行っていますか。	B

2. 自己点検・評価

対象年度における組織の状況を自己点検・評価し、その内容を、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて「自己点検・評価項目」毎に具体的に説明してください。

現状、「何を」規定または実施していて、「いつ」「どの会議で(誰が)」「どのように(指標・方法)」検証を行い、「どのように(基準)」自己点検していますか。	
1110	2017 年度事業計画は 2016 年 7 月に所長と一部の担当者で初案を作成し、11 月の予算申請時に同者にて最終決定した。[1110a] しかし、所員会議での配付等、所員への周知がされておらず、計画どおり実施された部分と、実施されなかった部分がある。
1120	2017 年度は所員会議を 2 回開催し、議事録を作成した。議事録は作成後に所長が確認し、次回の所員会議にて配付し、所員による承認を得ている。[1120a]、[1120b]
長所・特色 << 箇条書き >> *先駆性や独自性があるもの、有意な成果がみられるもの、他の組織の範となるもの	
項目 No. 1120	ESD,GIS 両センターの情報共有の場として所員会議が役立っている。
項目 No. 1120	会議開催時の他に審議事項があるときは、メール審議にて効率的に議論を進めている。
課題事項 << 箇条書き >> *向上すべき点、改善すべき点	
項目 No. 1110	事業計画を年度途中に見直し、計画の遂行あるいは必要あれば修正を行うべきである。
項目 No. 1110	事業計画の実行時期の設定が不十分なため、年度末に行事開催が集中しがちである。

3. 向上・改善に向けた取り組み

向上・改善に向けた取り組みについて、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて具体的に説明してください。

< 向上・改善の進捗状況 >

対象年度における取組 *成果の有無を問わない
2017 年度中には事業計画の周知、遂行の改善に向けた取組は特に行われなかった。

--

<今後の向上・改善計画>

項目 No.	課題事項と向上・改善方策（到達目標を含む）
1110	前年度3月中に事業計画を所員会議にて配付し、所員に意識付ける
1110	事業計画作成の際に、各取組みの実施時期を記載し、時期ごとにリマインドする

4. 根拠資料

項目 No.	根拠資料記号	提出区分	根拠資料の名称
1110	a	A	平成29年度事業計画
1120	a	A	平成29年度第1回所員会議議事録
1120	b	A	平成29年度第2回所員会議議事録

提出区分 … A：本シートと一緒に提出する資料 B：現部署で保管

2018 年度(対象年度:2017 年度)自己点検・評価シート

自己評価組織	中部高等学術研究所国際ESD センター
--------	---------------------

基準 11 大学独自の評価項目

1. 点検・評価結果 < 評定 >

自己評価欄に「A：適切に取り組んでいる」「B：概ね取り組んでいる」「C：改善すべき点がある」「D：今後取り組んでいく」の4段階で記入してください。

項目 No.	自己点検・評価項目	自己点検・評価の視点	自己評価
1110	研究組織において、計画的に研究活動を推進していますか。	(1)研究組織(研究所、研究系センター等)において、設置目的に沿った研究推進を計画的に進めていますか。 ・年度重点目標の設定	B
1120	管理運営組織および教育研究組織において、持続的に業務内容の点検を行っていますか。	(2)委員会活動の検証 ・開催、および議事録作成に関する手続きは、適切に行っていますか。	C

2. 自己点検・評価

対象年度における組織の状況を自己点検・評価し、その内容を、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて「自己点検・評価項目」毎に具体的に説明してください。

現状、「何を」規定または実施していて、「いつ」「どの会議で(誰が)」「どのように(指標・方法)」検証を行い、「どのように(基準)」自己点検していますか。	
国際ESDセンターは、国際ESDセンター運営委員会を設置し、国際ESDセンター所属教員に加えて、全7学部からの選出委員が運営委員会においてセンターの活動内容の点検をおこなっている。 また、中部高等学術研究所の付置センターであるため、国際ESDセンター内で立案した事業計画や運営方針等は、随時、中部高等学術研究所長および中部高等学術研究所所員会議において報告し、点検を受けている。	
長所・特色 <<箇条書き>>	*先駆性や独自性があるもの、有意な成果がみられるもの、他の組織の範となるもの
項目 No.1110	全7学部から選出された委員を有する運営委員会で活動内容の点検を行っている。(1110a)
項目 No.1110	中部高等学術研究所所長および所員への活動報告や意見収集を行っている。
課題事項 <<箇条書き>>	*向上すべき点、改善すべき点
項目 No.1120	2017年度は、国際ESDセンター運営委員会の開催回数が例年に比べて少なかった。(1120a,b)
項目 No.1120	自己点検に関して、数値(シンポジウム開催回数や発行回数)以外の指標の検討が必要。

3. 向上・改善に向けた取り組み

向上・改善に向けた取り組みについて、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて具体的に説明してください。

< 向上・改善の進捗状況 >

対象年度における取組	*成果の有無を問わない
国際ESDセンターでは、各種行事(シンポジウム・発表会等)開催後に、教員と事務員の参加による「イベント評価会議」を開催している。会議では、企画内容・スケジュール・行事運営方法・予算執行等について、教員	

と事務員の枠を超えたイベント評価と、問題点の改善に向けた意見交換を行った。国際ESDセンターが事務局を担う中部ESD拠点協議会では、平成29年度の主たる活動であった中部サステナ政策塾の活動について、年度末に事業の評価会議を開催した。評価会議では、事務局スタッフおよび顧問の教授陣で自己評価をおこなうとともに、政策塾のサポーター、塾生、市民活動家などから外部評価を受けた。

<今後の向上・改善計画>

項目 No.	課題事項と向上・改善方策 (到達目標を含む)
1110	運営委員から個人としての意見に加えて、各学部での改善手法を考慮した助言を受ける。
1120	運営委員会の開催予定回数を下回らないように、開催日を事前に決定する

4. 根拠資料

項目 No.	根拠資料記号	提出区分	根拠資料の名称
1120	a	A	国際ESDセンター第1回運営委員会議事録
1120	b	A	国際ESDセンター第2回運営委員会議事録
1120	c	B	国際ESDセンターイベント評価シート
1120	d	B	中部サステナ政策塾(第2期)評価会議(報告書内に評価会議の概要掲載)
1110	a	A	国際ESDセンターの活動計画(中部高等学術研究所所員会議資料)

提出区分 … A:本シートと一緒に提出する資料 B:現部署で保管

2018 年度(対象年度:2017 年度)自己点検・評価シート

自己評価組織	中部高等学術研究所国際GISセンター
--------	--------------------

基準 11 大学独自の評価項目

1. 点検・評価結果 < 評定 >

自己評価欄に「A：適切に取り組んでいる」「B：概ね取り組んでいる」「C：改善すべき点がある」「D：今後取り組んでいく」の4段階で記入してください。

項目 No.	自己点検・評価項目	自己点検・評価の視点	自己評価
1110	研究組織において、計画的に研究活動を推進していますか。	(1)研究組織(研究所、研究系センター等)において、設置目的に沿った研究推進を計画的に進めていますか。 ・年度重点目標の設定	B
1120	管理運営組織および教育研究組織において、持続的に業務内容の点検を行っていますか。	(2)委員会活動の検証 ・開催、および議事録作成に関する手続きは、適切に行っていますか。	B

2. 自己点検・評価

対象年度における組織の状況を自己点検・評価し、その内容を、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて「自己点検・評価項目」毎に具体的に説明してください。

<p>現状、「何を」規定または実施していて、「いつ」「どの会議で(誰が)」「どのように(指標・方法)」検証を行い、「どのように(基準)」自己点検していますか。</p> <p>1110・1120 「国際GISセンター規程」、「国際GISセンター運営委員会規程」、「国際GISセンター「問題複合体を対象とするデジタルアース共同利用・共同研究拠点」共同利用委員会規程」により、研究活動の指針、及び持続的な業務内容の点検について規定している。</p> <p>1110 平成28年6月に研究推進機構会議提出の「研究に係る事業計画と予算の提案」において、単年度の研究・予算計画等について規定している。[1110a]</p> <p>1110 特に、「問題複合体を対象とするデジタルアース共同利用・共同研究拠点」活動については、平成28年4月に文部科学省学術機関課に提出の「平成29年度実施計画書」において、単年度の研究・予算計画等について規定している。[1110b]</p> <p>1110・1120 平成30年3月に国際GISセンター運営委員会を開催し、委員による議論により、平成29年度業務内容、及び平成30年度の研究活動の方針の確認と、組織・体制の点検を行った。[1110c]</p> <p>1110・1120 特に「問題複合体を対象とするデジタルアース共同利用・共同研究拠点」活動については、平成29年5月に学外委員が半数以上を占める共同利用委員会(オンライン)により、平成30年度の共同研究推進内容の審議を行った。[1110・1120d] また、平成30年3月に、平成29年度の共同研究成果を総括する成果報告会を開催すると同時に、共同利用委員会を開催し、平成29年度の拠点活動、及び平成30年度の研究活動の方針の確認と、組織・体制の点検を行った。[1110・1120e]</p>

1110・1120 「問題複合体を対象とするデジタルアース共同利用・共同研究拠点」活動については、平成30年6月に「平成29年度実施状況報告書」を、文部科学省学術機関課に提出を予定している。(平成26年の拠点認定から毎年「実施状況報告書」を作成・提出し、拠点としての研究活動及び業務内容の点検を行っている。)[1110・1120f]	
1110・1120 「問題複合体を対象とするデジタルアース共同利用・共同研究拠点」活動については、平成29年5月に、平成26年の拠点認定からの活動を対象とする「中間評価報告書」を文部科学省学術機関課に提出[1110・1120g]、平成29年8月にヒアリング審査を受け、「S：拠点としての活動が活発に行われており、関連コミュニティへの貢献も多大であると判断される」という評価を受けている。[1110・1120h]	
長所・特色 ≪箇条書き≫ *先駆性や独自性があるもの、有意な成果がみられるもの、他の組織の範となるもの	
項目 No.1110・1120	共同利用・共同研究拠点としての運営体制・研究活動について、学外委員が半数以上を占める共同利用委員会、及び文部科学省から高い評価を受けている。
項目 No.	
課題事項 ≪箇条書き≫ *向上すべき点、改善すべき点	
項目 No.1110・1120	国際GISセンターとしての研究活動について、当初研究計画に基づいた予算の執行と、進捗状況に応じた適切な柔軟性を持った執行とのバランスが求められる。
項目 No.1110	研究組織としての、国際共同研究への取り組み、研究拠点の連携を図るネットワーク化、分野の将来を担う人材の育成を重点的に推進することが求められる。

3. 向上・改善に向けた取り組み

向上・改善に向けた取り組みについて、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて具体的に説明してください。

<向上・改善の進捗状況>

対象年度における取組 *成果の有無を問わない	
中部高等学術研究所、並びに国際GISセンター規程の見直し、及び「事業計画と予算案」の見直しを随時行うことにより、当初研究計画と進捗状況に応じた適切な柔軟性のバランスの取れた事業推進に取り組んでいる。	
国際共同研究への取り組み、研究拠点の連携を図るネットワーク化、分野の将来を担う人材の育成を重点的に推進するために、共同利用・共同研究拠点のための文部科学省補助金「特色ある共同研究拠点の整備の推進事業～機能強化支援～」への応募と、推進するための体制構築に取り組んでいる。[1110]	

<今後の向上・改善計画>

項目 No.	課題事項と向上・改善方策 (到達目標を含む)
1110・1120	平素から所内教員のコミュニケーションを図るとともに、所外の人的資源とも交流し、センター長主導で、当初研究計画と進捗状況に応じた適切な柔軟性のバランスの取れた事業推進を行う。
1110	「特色ある共同研究拠点の整備の推進事業（機能強化支援）」に応募し、採択と推進を目指す。

4. 根拠資料

項目 No.	根拠資料記号	提出区分	根拠資料の名称
1110	a	A	「研究に係る事業計画と予算の提案」
1110	b	A	「平成29年度実施計画書」
1110・1120	c	A	国際GISセンター運営委員会議事メモ
1110・	d	A	研究課題評価一覧

1120			
1110・ 1120	e	A	共同利用委員会議事録
1110・ 1120	f	A	「平成28年度実施状況報告書」
1110・ 1120	g	A	「中間評価報告書」
1110・ 1120	h	A	「中間評価結果」
1110	i	A	「特色ある共同研究拠点の整備の推進事業～機能強化支援～申請書」

提出区分 … A：本シートと一緒に提出する資料 B：現部署で保管

2018 年度(対象年度:2017 年度)自己点検・評価シート

自己評価組織	総合工学研究所
--------	---------

基準 11 大学独自の評価項目

1. 点検・評価結果 < 評定 >

自己評価欄に「A：適切に取り組んでいる」「B：概ね取り組んでいる」「C：改善すべき点がある」「D：今後取り組んでいく」の4段階で記入してください。

項目 No.	自己点検・評価項目	自己点検・評価の視点	自己評価
1110	研究組織において、計画的に研究活動を推進していますか。	(1)研究組織(研究所、研究系センター等)において、設置目的に沿った研究推進を計画的に進めていますか。 ・年度重点目標の設定	A
1120	管理運営組織および教育研究組織において、持続的に業務内容の点検を行っていますか。	(2)委員会活動の検証 ・開催、および議事録作成に関する手続きは、適切に行っていますか。	A

2. 自己点検・評価

対象年度における組織の状況を自己点検・評価し、その内容を、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて「自己点検・評価項目」毎に具体的に説明してください。

現状、「何を」規定または実施していて、「いつ」「どの会議で(誰が)」「どのように(指標・方法)」検証を行い、「どのように(基準)」自己点検していますか。	
総合工学研究所は、活動方針、活動計画等を運営委員会で審議し決定している。 活動内容は、研究課題の募集、学内外の人を対象とした講演会の開催、研究課題で採択された研究の成果を年度末の研究発表会で報告し、紀要「総合工学」として Web で公開している。	
長所・特色 <<箇条書き>> *先駆性や独自性があるもの、有意な成果がみられるもの、他の組織の範となるもの	
項目 No.1110(1)	研究課題は、書類審査および面接(プレゼン)にて審査する。
項目 No.1110(1)	研究課題が採択された研究員は、未申請研究課題で JSPS に申請する。
課題事項 <<箇条書き>> *向上すべき点、改善すべき点	
項目 No.	特になし
項目 No.	

3. 向上・改善に向けた取り組み

向上・改善に向けた取り組みについて、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて具体的に説明してください。

< 向上・改善の進捗状況 >

対象年度における取組 *成果の有無を問わない
研究員は更なる向上を目指し今後の外部資金を獲得すべく研究費を活用している。

<今後の向上・改善計画>

項目 No.	課題事項と向上・改善方策（到達目標を含む）

4. 根拠資料

項目 No.	根拠資料記号	提出区分	根拠資料の名称
1110(1)	a	A	総合工学研究所 研究課題
1110(1)	b	A	総合工学研究所研究課題の募集について
1110(1)	c	A	総合工学研究所 講演会
1110(1)	d	A	総合工学研究所 研究発表会
1110(1)	e	B	紀要「総合工学」 http://www.isc.chubu.ac.jp/istr/contents/thesis.php
1120(2)	a	A	総合工学研究所 第1回運営委員会議事録

提出区分 … A：本シートと一緒に提出する資料 B：現部署で保管

2018 年度(対象年度:2017 年度)自己点検・評価シート

自己評価組織	生産技術開発センター
--------	------------

基準 11 大学独自の評価項目

1. 点検・評価結果 < 評定 >

自己評価欄に「A：適切に取り組んでいる」「B：概ね取り組んでいる」「C：改善すべき点がある」「D：今後取り組んでいく」の4段階で記入してください。

項目 No.	自己点検・評価項目	自己点検・評価の視点	自己評価
1110	研究組織において、計画的に研究活動を推進していますか。	(1)研究組織(研究所、研究系センター等)において、設置目的に沿った研究推進を計画的に進めていますか。 ・年度重点目標の設定	A
1120	管理運営組織および教育研究組織において、持続的に業務内容の点検を行っていますか。	(2)委員会活動の検証 ・開催、および議事録作成に関する手続きは、適切に行っていますか。	B

2. 自己点検・評価

対象年度における組織の状況を自己点検・評価し、その内容を、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて「自己点検・評価項目」毎に具体的に説明してください。

現状、「何を」規定または実施していて、「いつ」「どの会議で(誰が)」「どのように(指標・方法)」検証を行い、「どのように(基準)」自己点検していますか。	
<p>中部大学生産技術開発センター(以下[センター]という。)は、活動内容ならびに運営方法などを定めたセンター規程に基づき、生産技術に関する研究開発を産学が協力して行い、もって大学の発展と地域社会に貢献することを目的として活動を行っている。年3回開催される運営委員会においては、活動方針、活動計画等を審議し、決定するとともに、活動成果および目的達成状況について検証している。現在、自己点検評価の基準は特に設けていないが、運営委員会における審議が自己点検評価の機会に相当し、また、毎年、学内外に向けてのセンターの研究発表会を開催するとともに、センター研究プロジェクトの成果報告と研究業績を年次報告書にまとめてWebで公開し、対外的な点検評価の機会も設けている。</p>	
長所・特色 <<箇条書き>> *先駆性や独自性があるもの、有意な成果がみられるもの、他の組織の範となるもの	
項目 No.1110	センター所属研究員は競争的資金に応募し、採択実績も相当数に上る。
項目 No. 1110	企業との連携研究が多く、研究に参加する大学院生にとって実践的教育の場が提供されている。
課題事項 <<箇条書き>> *向上すべき点、改善すべき点	
項目 No. 1110	活動の情報発信のため、ホームページの充実等を図る必要がある。
項目 No. 1120	センター運営委員会の自己点検評価機能を向上させ、更なる研究活動の活性化を図る。

3. 向上・改善に向けた取り組み

向上・改善に向けた取り組みについて、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて具体的に説明してください。

<向上・改善の進捗状況>

対象年度における取組 *成果の有無を問わない
<p>センターにおける研究課題ならびに研究員は、毎年学内に向けて公募し、3～4 件程度を採択している。その募集および選考方法は、外部の競争的資金に採択された研究者や申請者を優先し、採択テーマ（2017 年度は4 テーマ）をセンター運営委員会にて審議し、センター長が決定している。産学連携セミナー（講演会・研究発表会・見学会）を開催し、毎回 80 名程度の企業の研究者および技術者が参加している。</p> <p>上記活動の成果については、センターホームページにて Web 公開しているが、運営委員会等において十分な検証を行っているとは言えず、今後は当該年度の活動状況を十分に点検評価した上で、次年度以降の活動計画を策定し、実施する体制を整える必要がある。</p>

<今後の向上・改善計画>

項目 No.	課題事項と向上・改善方策（到達目標を含む）
1110	2018 年度に新設された宇宙航空理工学科等より新たな産業分野の生産技術関連の研究課題を発掘し、更なる研究活動の活性化を図る。
1120	センター運営委員会の自己点検評価機能の向上を図るとともに、議事録の充実に努め、活動の検証過程を明確化する。

4. 根拠資料

項目 No.	根拠資料記号	提出区分	根拠資料の名称
1110	a	A	中部大学生産技術開発センター規程
1110	b	A	平成 29 年度生産技術開発センター活動報告
1110	c	A	平成 29 年度生産技術開発センター予算執行状況一覧表
1110	d	A	平成 30 年度生産技術開発センター研究員募集要項
1110	e	A	平成 30 年度生産技術開発センター事業計画と予算案

提出区分 … A：本シートと一緒に提出する資料 B：現部署で保管

2018 年度(対象年度:2017 年度)自己点検・評価シート

自己評価組織	教育技術部
--------	-------

基準 11 大学独自の評価項目

1. 点検・評価結果 < 評定 >

自己評価欄に「A：適切に取り組んでいる」「B：概ね取り組んでいる」「C：改善すべき点がある」「D：今後取り組んでいく」の4段階で記入してください。

項目 No.	自己点検・評価項目	自己点検・評価の視点	自己評価
1120	管理運営組織および教育研究組織において、持続的に業務内容の点検を行っていますか。	(1)管理運営組織(センター、事務部等)の設置目的や事務分掌等に則り、持続的に改善・向上の取り組みを行っていますか。 ・年度重点目標の設定	B
		(2)委員会活動の検証 ・開催、および議事録作成に関する手続きは、適切に行っていますか。	B

2. 自己点検・評価

対象年度における組織の状況を自己点検・評価し、その内容を、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて「自己点検・評価項目」毎に具体的に説明してください。

現状、「何を」規定または実施していて、「いつ」「どの会議で(誰が)」「どのように(指標・方法)」検証を行い、「どのように(基準)」自己点検していますか。	
<p>中部大学工学部教育技術部(以下[技術部]という。)は、従来の教育技術センターに変わり、2017年度から新たに発足し、その目的、活動内容および運営方法等は技術部規程に定められている。2017年度は、毎月1回全体会議を開催し、活動状況等の審議を通じて目標達成度を検証している。審議内容は毎回議事録を作成し、部員に配付するとともに保管している。また、年度末の3月には、技術部発表会を開催し、活動成果を公表し、発表資料を保管している。評価基準は特に定めていないが、上記会議等の審議を通して自己点検を行っている。</p>	
長所・特色 <<箇条書き>> *先駆性や独自性があるもの、有意な成果がみられるもの、他の組織の範となるもの	
項目 No.1120	年度末には技術部発表会を開催し、系および部員各自の活動成果を公表している。
項目 No. 1120	毎月全体会議を開催し、意見交換を行い、部員全体で情報の共有を行っている。
課題事項 <<箇条書き>> *向上すべき点、改善すべき点	
項目 No.1120	活動方針や活動計画等を審議するため、今後は技術部運営委員会を開催するとともに、活動内容および成果の更なる情報発信に努める。
項目 No. 1120	技術部活動の自己点検評価機能の向上を図るため、運営委員会での審議を活発化する。

3. 向上・改善に向けた取り組み

向上・改善に向けた取り組みについて、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて具体的に説明してください。

<向上・改善の進捗状況>

対象年度における取組 *成果の有無を問わない
<p>技術部では、各部員の月報（日々の業務内容ごとの時間数を月ごとにまとめたもの）およびC表（1年間の目標と自己評価）をまとめ、これをもとに年2回の面談を実施し、技術部員のスキルアップを図ってきた。また、1年間の活動成果をもとに年度末の3月に技術部発表会を開催し、そこで出た他部署からの意見を今後の活動に反映させている。技術部全体会議において技術部の活動を審議してはいたが、運営委員会の開催はなく、客観的な評価は十分とは言いがたい。また、年度末に技術部発表会を開催しているが、技術部関係者以外の参加者が少なく、今後は開催PRに努めるとともに、情報発信の方法を検討する必要がある。</p>

<今後の向上・改善計画>

項目 No.	課題事項と向上・改善方策（到達目標を含む）
1120	技術部の活動の点検評価を客観的に行うため、技術部運営委員会を月例で開催し、その審議内容を議事録として残す。
1120	技術部の活動を点検評価し、その活動を持続的に向上、発展させるため、運営委員会の機能を活用する。

4. 根拠資料

項目 No.	根拠資料記号	提出区分	根拠資料の名称
1120	a	A	中部大学工学部教育技術部規定
1120	b	A	2017年度教育技術部発表会資料
1120	c	A	2017年度教育技術部全体会議配付資料（会議議事録を含む）
1120	d	A	2017年度個人面談スケジュール表
1120	e	B	2017年度月報、C表

提出区分 … A：本シートと一緒に提出する資料 B：現部署で保管

2018 年度(対象年度:2017 年度)自己点検・評価シート

自己評価組織	国際関係学部事務室
--------	-----------

基準 11 大学独自の評価項目

1. 点検・評価結果 <評定>

自己評価欄に「A：適切に取り組んでいる」「B：概ね取り組んでいる」「C：改善すべき点がある」「D：今後取り組んでいく」の4段階で記入してください。

項目 No.	自己点検・評価項目	自己点検・評価の視点	自己評価
1120	管理運営組織および教育研究組織において、持続的に業務内容の点検を行っていますか。	(1)管理運営組織(センター、事務部等)の設置目的や事務分掌等に則り、持続的に改善・向上の取り組みを行っていますか。 ・年度重点目標の設定	A
		(2)委員会活動の検証 ・開催、および議事録作成に関する手続きは、適切に行っていますか。	A

2. 自己点検・評価

対象年度における組織の状況を自己点検・評価し、その内容を、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて「自己点検・評価項目」毎に具体的に説明してください。

現状、「何を」規定または実施していて、「いつ」「どの会議で(誰が)」「どのように(指標・方法)」検証を行い、「どのように(基準)」自己点検していますか。	
1120 国際関係学部および国際人間学研究科の教育研究活動・管理運営が的確かつ円滑になされるために、学部における課題・検討事項が国際関係学部教授会・国際人間学研究科において遺漏無く確認・周知が行われるよう、学部の主任会議、研究科の専攻主任連絡会に事務長も同席し、毎回の教授会・研究科委員会の議題確認を共に行った。また、国際関係学部教授会においては、必要に応じて事務長から報告を行った[1120a・b]	
長所・特色 <<箇条書き>> *先駆性や独自性があるもの、有意な成果がみられるもの、他の組織の範となるもの	
項目 No.	
項目 No.	
課題事項 <<箇条書き>> *向上すべき点、改善すべき点	
項目 No.	
項目 No.	

3. 向上・改善に向けた取り組み

向上・改善に向けた取り組みについて、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて具体的に説明してください。

<向上・改善の進捗状況>

対象年度における取組 *成果の有無を問わない
国際関係学部教授会において、事務の立場から説明を行った方が正確かつ詳細に内容が伝わる案件については、学部長の了承を受けた上で、事務長から報告を行った[1120a]。また、国際人間学研究科委員会については、事

前に行われる専攻主任連絡会における議題確認に参画した[1120b]

<今後の向上・改善計画>

項目 No.	課題事項と向上・改善方策 (到達目標を含む)

4. 根拠資料

項目 No.	根拠資料記号	提出区分	根拠資料の名称
1120	a	B	平成 29 年度 第 1 回～第 13 回国際関係学部教授会議事録
1120	b	B	2017 年度 第 1 回～第 10 回国際人間学研究科委員会議事録

提出区分 … A : 本シートと一緒に提出する資料 B : 現部署で保管

2018 年度(対象年度:2017 年度)自己点検・評価シート

自己評価組織	生命健康科学部事務室
--------	------------

基準 11 大学独自の評価項目

1. 点検・評価結果 < 評定 >

自己評価欄に「A：適切に取り組んでいる」「B：概ね取り組んでいる」「C：改善すべき点がある」「D：今後取り組んでいく」の4段階で記入してください。

項目 No.	自己点検・評価項目	自己点検・評価の視点	自己評価
1120	管理運営組織および教育研究組織において、持続的に業務内容の点検を行っていますか。	(1)管理運営組織(センター、事務部等)の設置目的や事務分掌等に則り、持続的に改善・向上の取り組みを行っていますか。 ・年度重点目標の設定	C
		(2)委員会活動の検証 ・開催、および議事録作成に関する手続きは、適切に行っていますか。	B

2. 自己点検・評価

対象年度における組織の状況を自己点検・評価し、その内容を、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて「自己点検・評価項目」毎に具体的に説明してください。

現状、「何を」規定または実施している、「いつ」「どの会議で(誰が)」「どのように(指標・方法)」検証を行い、「どのように(基準)」自己点検していますか。	
(1) 業務の改善・向上については、日々の業務の中で随時取り組んでいる。また、毎年3月の人事考課面接時に翌年度の事務室重点目標を事務長から課員に提示し、課員の業務目標設定の一助としているが、明文化までは行っていない。	
(2) 委員会活動について、事務室は課員3名の小さな組織であるため特に事務室としての委員会を開催していないが、学部長主導のもと学部として開催する教授会、主任会等の各種委員会については、事務長が会議開催、議事録作成等で適切にサポートを行っている。	
長所・特色 <<箇条書き>> *先駆性や独自性があるもの、有意な成果がみられるもの、他の組織の範となるもの	
項目 No.	
項目 No.	
課題事項 <<箇条書き>> *向上すべき点、改善すべき点	
項目 No.1101	年度重点目標が明文化されていない。
項目 No.	

3. 向上・改善に向けた取り組み

向上・改善に向けた取り組みについて、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて具体的に説明してください。

< 向上・改善の進捗状況 >

対象年度における取組 *成果の有無を問わない

今後は年度重点目標を明文化した上で、人事考課面接時に課員と掘り合わせを行い、実質的な目標設定を行うよう努める。

<今後の向上・改善計画>

項目 No.	課題事項と向上・改善方策（到達目標を含む）
1101	年度重点目標を明文化する。

4. 根拠資料

項目 No.	根拠資料記号	提出区分	根拠資料の名称
1101	a	A	事務分掌（生命健康科学部分）

提出区分 … A：本シートと一緒に提出する資料 B：現部署で保管

2018 年度(対象年度:2017 年度)自己点検・評価シート

自己評価組織	学生教育部 キャリア支援課
--------	---------------

基準 11 大学独自の評価項目

1. 点検・評価結果 < 評定 >

自己評価欄に「A：適切に取り組んでいる」「B：概ね取り組んでいる」「C：改善すべき点がある」「D：今後取り組んでいく」の4段階で記入してください。

項目 No.	自己点検・評価項目	自己点検・評価の視点	自己評価
1120	管理運営組織および教育研究組織において、持続的に業務内容の点検を行っていますか。	(1)管理運営組織(センター、事務部等)の設置目的や事務分掌等に則り、持続的に改善・向上の取り組みを行っていますか。 ・年度重点目標の設定	C
		(2)委員会活動の検証 ・開催、および議事録作成に関する手続きは、適切に行っていますか。	B

2. 自己点検・評価

対象年度における組織の状況を自己点検・評価し、その内容を、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて「自己点検・評価項目」毎に具体的に説明してください。

現状、「何を」規定または実施している、「いつ」「どの会議で(誰が)」「どのように(指標・方法)」検証を行い、「どのように(基準)」自己点検していますか。	
キャリア支援課主催の就職支援業務を、年間5回開催するキャリア委員会にて諸事項について審議し推進することで、各年度の方向性を統一し検証を行って点検している。[1120a]	
インターンシップ関連業務は、インターンシップ推進委員会を年間2回開催し、学生の評価基準や訪問先企業の開拓等、検証を行って点検している。[1120b]	
長所・特色 <<箇条書き>> *先駆性や独自性があるもの、有意な成果がみられるもの、他の組織の範となるもの	
項目 No.1120	委員会の下に、理系、文系、資格系分科会を置き、テーマごとに課題を解決している。[1120c]
項目 No.1120.	内定調査や、各行事の引率などキャリア支援課員との教職協働が出来ている。[1120c]
課題事項 <<箇条書き>> *向上すべき点、改善すべき点	
項目 No.1120	就職先の質の向上を達成するため、企業訪問や交流会の開催を継続して取り組む必要がある。
項目 No.1120	就職先企業の実態調査と、年度ごとの離職率算出を目指し、卒業生調査を行う必要がある。
項目 No.1120	年度重点目標を設定し、キャリア形成支援教育の方向性を委員会で諮る必要がある。

3. 向上・改善に向けた取り組み

向上・改善に向けた取り組みについて、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて具体的に説明してください。

<向上・改善の進捗状況>

対象年度における取組 *成果の有無を問わない
<ul style="list-style-type: none"> ・就職先の質の向上を図るため、「企業との交流会」を開催した。[1120d] ・卒業生の卒業後の実態把握を図るため、次年度調査をする質問項目等の準備を進めた。

<今後の向上・改善計画>

項目 No.	課題事項と向上・改善方策（到達目標を含む）
1120	今年度 11 月に工学部を中心に「企業との交流会」を開催する。
1120	今年度計上した予算内において、卒業生の実態調査を実行する。
1120	2 年次文系学生の職業観の希薄化を受け、キャリア形成支援プログラムの再構築を図る。

4. 根拠資料

項目 No.	根拠資料記号	提出区分	根拠資料の名称
1120	a	A	キャリア委員会議事録
1120	b	A	インターンシップ推進委員会議事録
1120	c	A	理系、文系、資格系分科会議事録
1120	d	A	企業との交流会開催案内、チラシ

提出区分 … A：本シートと一緒に提出する資料 B：現部署で保管

2018 年度(対象年度:2017 年度)自己点検・評価シート

自己評価組織	入学センター事務部 広報課
--------	---------------

基準 11 大学独自の評価項目

1. 点検・評価結果 < 評定 >

自己評価欄に「A：適切に取り組んでいる」「B：概ね取り組んでいる」「C：改善すべき点がある」「D：今後取り組んでいく」の4段階で記入してください。

項目 No.	自己点検・評価項目	自己点検・評価の視点	自己評価
1120	管理運営組織および教育研究組織において、持続的に業務内容の点検を行っていますか。	(1)管理運営組織(センター、事務部等)の設置目的や事務分掌等に則り、持続的に改善・向上の取り組みを行っていますか。 ・年度重点目標の設定	A
		(2)委員会活動の検証 ・開催、および議事録作成に関する手続きは、適切に行っていますか。	A

2. 自己点検・評価

対象年度における組織の状況を自己点検・評価し、その内容を、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて「自己点検・評価項目」毎に具体的に説明してください。

現状、「何を」規定または実施していて、「いつ」「どの会議で(誰が)」「どのように(指標・方法)」検証を行い、「どのように(基準)」自己点検していますか。	
(1)においては、広報活動計画表[1120 a]を策定し、課員が携わる募集活動のベースとしている。日々の朝礼において、業務の予定確認、催事の準備状況や対応結果を報告するなど情報共有するとともに改善点などについて意見交換を行なっている。志願状況を確認して必要に応じて追加の広報活動を実施している。	
(2)においては、年に7回程度開催しており、開催、議事録作成手続きは適切に行なっている。年度初めに広報活動計画表[1120 a]を諮り、以後は催事の事前確認や実施後の振返りなどが内容の中心である。中には今後対応が必要な事項や対応すべき事項がある場合は、その検討を行なうなどしている。入学試験終了後は志願者数[1120 b]、接触者数[1120 c]を算出し経年の変化等を確認し振返りを行なっている。	
長所・特色 <<箇条書き>> *先駆性や独自性があるもの、有意な成果がみられるもの、他の組織の範となるもの	
項目 No.1120	毎日、朝礼を行い情報共有等を行なっている。
課題事項 <<箇条書き>> *向上すべき点、改善すべき点	
項目 No.1120	志願者数の増加(接触者の志願率向上)

3. 向上・改善に向けた取り組み

向上・改善に向けた取り組みについて、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて具体的に説明してください。

<向上・改善の進捗状況>

対象年度における取組 *成果の有無を問わない
幼児教育学科ニューズレターの制作、発送 [1120 d] 接触者からできるだけ多くの志願者を得ることを目的に、学科等の魅力を伝えるためのニューズレターを新たに作成し資料請求者に送付した。

<今後の向上・改善計画>

項目 No.	課題事項と向上・改善方策 (到達目標を含む)
1120	出稿する広告媒体の見直し (受験対象者に直接訴求できる方向にシフト)

4. 根拠資料

項目 No.	根拠資料記号	提出区分	根拠資料の名称
1120	a	A	入学センター項目 No.1120 a 2018 年度広報活動計画表 (案) .pdf
1120	b	A	入学センター項目 No.1120 b 2002-2018 志願者推移グラフ.pdf
1120	c	A	入学センター項目 No.1120 c 2016-2017 接触者状況.pdf
1120	d	A	入学センター項目 No.1120 d. 幼児ニューズレター2号 1201pdf

提出区分 … A : 本シートと一緒に提出する資料 B : 現部署で保管

2018 年度(対象年度:2017 年度)自己点検・評価シート

自己評価組織	入学センター事務部 入試課
--------	---------------

基準 11 大学独自の評価項目

1. 点検・評価結果 < 評定 >

自己評価欄に「A：適切に取り組んでいる」「B：概ね取り組んでいる」「C：改善すべき点がある」「D：今後取り組んでいく」の4段階で記入してください。

項目 No.	自己点検・評価項目	自己点検・評価の視点	自己評価
1120	管理運営組織および教育研究組織において、持続的に業務内容の点検を行っていますか。	(1)管理運営組織(センター、事務部等)の設置目的や事務分掌等に則り、持続的に改善・向上の取り組みを行っていますか。 ・年度重点目標の設定	B
		(2)委員会活動の検証 ・開催、および議事録作成に関する手続きは、適切に行っていますか。	B

2. 自己点検・評価

対象年度における組織の状況を自己点検・評価し、その内容を、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて「自己点検・評価項目」毎に具体的に説明してください。

現状、「何を」規定または実施している、「いつ」「どの会議で(誰が)」「どのように(指標・方法)」検証を行い、「どのように(基準)」自己点検していますか。	
(1) 2018 年度入学試験日程を策定し「入試・選抜委員会」にて承認後、入試課員は担当毎の入試を見据え、日々の業務を進めている。毎日の朝礼において業務の進捗確認、入試の準備状況について課員が報告するなど情報共有をすると共に改善点について意見交換を行っている。また入試業務に留まらず、入試時期以外は、高校訪問や講師派遣等で各方面に出向き、広報活動及び入試に関する高校側のニーズの収集に努めている。 (2) 「入試・選抜委員会」を1年に12回開催している。年度初めに入学試験日程、入試要項等を諮っている。各入試が終了後に「入試・選抜委員会」を開催し、公正な入学者選抜を実施して議事録を作成している。	
長所・特色 <<箇条書き>> *先駆性や独自性があるもの、有意な成果がみられるもの、他の組織の範となるもの	
項目 No.1120	毎朝、入学センター内で朝礼を行い、行事・出張等のスケジュール確認を行っている。また入試課、広報課内で情報を共有し、両課で業務のサポート体制を構築している。
項目 No.	
課題事項 <<箇条書き>> *向上すべき点、改善すべき点	
項目 No.1120	業務効率を高めた入試業務の運営
項目 No.	

3. 向上・改善に向けた取り組み

向上・改善に向けた取り組みについて、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて具体的に説明してください。 < 向上・改善の進捗状況 >

対象年度における取組 *成果の有無を問わない
「AOポートフォリオ入試」導入 → 2016 年度まで実施していた「AO入試」から「AOポートフォリオ入試」へと変更。 筆記試験では測定できない秘めたる能力や多様な能力を持った受験生獲得を目指す。 出願時までに修得した学業及び学業以外の諸成果を「AOポートフォリオ」として志願票と共に提出し、

志望学科が実施する講義・実習等の成果及び面接を踏まえ、評価・選抜を行う。
 数年後の大学入試改革を前倒しする形で、既成概念にとらわれない多彩な学生確保を目指している。

<今後の向上・改善計画>

項目 No.	課題事項と向上・改善方策（到達目標を含む）
1120	願書受付から合格者への入学に関する書類発送業務の外部委託の導入

4. 根拠資料

項目 No.	根拠資料記号	提出区分	根拠資料の名称
1120	a	A	2018 年度入学試験日程
1120	b	B	2018 年度入試要項
1120	c	A	入試選抜委員会議事録
1120	d	A	入試業務において外部委託導入に伴う予算調査票

提出区分 … A：本シートと一緒に提出する資料 B：現部署で保管

2018 年度(対象年度:2017 年度)自己点検・評価シート

自己評価組織	臨地臨床実習推進部 事務室
--------	---------------

基準 11	大学独自の評価項目
-------	-----------

1. 点検・評価結果 < 評定 >

自己評価欄に「A：適切に取り組んでいる」「B：概ね取り組んでいる」「C：改善すべき点がある」「D：今後取り組んでいく」の4段階で記入してください。

項目 No.	自己点検・評価項目	自己点検・評価の視点	自己評価
1120	管理運営組織および教育研究組織において、持続的に業務内容の点検を行っていますか。	(1)管理運営組織(センター、事務部等)の設置目的や事務分掌等に則り、持続的に改善・向上の取り組みを行っていますか。 ・年度重点目標の設定	A
		(2)委員会活動の検証 ・開催、および議事録作成に関する手続きは、適切に行っていますか。	A

2. 自己点検・評価

対象年度における組織の状況を自己点検・評価し、その内容を、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて「自己点検・評価項目」毎に具体的に説明してください。

現状、「何を」規定または実施していて、「いつ」「どの会議で(誰が)」「どのように(指標・方法)」検証を行い、「どのように(基準)」自己点検していますか。	
臨地臨床実習推進部では7つのセンターの事務を司っており、各センターの「運営委員会」ならびに臨床検査・看護・理学・作業・管理栄養5センターの「専門実務ワーキング会議」に幹事として携わり、検証の内容を共有し記録を保管している。	
長所・特色 <<箇条書き>> *先駆性や独自性があるもの、有意な成果がみられるもの、他の組織の範となるもの	
項目 No. 1120	他のセンターの事例を示すことやセンター間の連絡調整を行うことにより、各センターの組織活動、自己点検・評価の支援を行う。
項目 No. 1120	他の養成校であまり行っていない「実習指導者会議」「教育セミナー」を当初から行い、大学と実習先のみならず、実習施設間の連携・情報交換にも貢献できるよう努めている。
項目 No. 1120	教育セミナーのテーマ・内容に基づき、他学科の実習先へも効果的に案内することによって、双方にとっての満足度向上を図る。
課題事項 <<箇条書き>> *向上すべき点、改善すべき点	
項目 No.1120	推進部運営委員会、各センターの運営委員会、専門実務委員会、専門実務ワーキング会議など、規程に盛り込まれた会議類を実情と照らし合わせて検証。
項目 No.1120	実習連絡会議の実習先指導者の出席率を上げる工夫。
項目 No.1120	就職説明会の今後のありかた。(時期・開催方法 等)
項目 No.1120	卒業生とのネットワークづくり。

3. 向上・改善に向けた取り組み

向上・改善に向けた取り組みについて、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて具体的に説明してください。

<向上・改善の進捗状況>

対象年度における取組 *成果の有無を問わない
<ul style="list-style-type: none"> ・ 専門実務委員会は推進部運営委員会で統合し、構成員も見直した。 ・ 理学療法と作業療法の同日開催の指導者会議を、実習スケジュールに合わせて別日開催とした。 ・ 臨床検査・理学・作業・臨床工・管理栄養で合同開催していた実習施設説明会（就職説明会）を見直し、作業と臨床工のみを別日程で開催した。

<今後の向上・改善計画>

項目 No.	課題事項と向上・改善方策（到達目標を含む）
No.1120	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学生、教員、実習先との間に立って、各センターの組織活動が円滑に進むよう努める。 ・ 卒業生とのネットワークづくり。 <p>実習施設を実習生の増減に対応できるよう、なるべく多く確保する必要がある、担当教員のネットワーク等を活用し新規開拓に対応する。教育セミナーも一役担えればと考えている。</p>
No.1120	理学療法と作業療法の教育セミナーの今後。教育セミナーを行っていない学科の今後。
No.1120	各学科の就職説明会のあり方。（開催の有無、時期、方法等）。看護は単独で9月中旬で固定。

4. 根拠資料

項目 No.	根拠資料記号	提出区分	根拠資料の名称
No.1120		A	平成29年度 臨地臨床実習推進部運営委員会
No.1120		A	平成29年度 管理栄養実習センター専門実務WG議事録

提出区分 … A：本シートと一緒に提出する資料 B：現部署で保管

2018 年度(対象年度:2017 年度)自己点検・評価シート

自己評価組織	看護実習センター
--------	----------

基準 11 大学独自の評価項目

1. 点検・評価結果 < 評定 >

自己評価欄に「A：適切に取り組んでいる」「B：概ね取り組んでいる」「C：改善すべき点がある」「D：今後取り組んでいく」の4段階で記入してください。

項目 No.	自己点検・評価項目	自己点検・評価の視点	自己評価
1120	管理運営組織および教育研究組織において、持続的に業務内容の点検を行っていますか。	(1)管理運営組織(センター、事務部等)の設置目的や事務分掌等に則り、持続的に改善・向上の取り組みを行っていますか。 ・年度重点目標の設定	B
		(2)委員会活動の検証 ・開催、および議事録作成に関する手続きは、適切に行っていますか。	B

2. 自己点検・評価

対象年度における組織の状況を自己点検・評価し、その内容を、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて「自己点検・評価項目」毎に具体的に説明してください。

現状、「何を」規定または実施していて、「いつ」「どの会議で(誰が)」「どのように(指標・方法)」検証を行い、「どのように(基準)」自己点検していますか。	
看護実習センターの組織活動については、定期的に行う「専門実務ワーキング」において検証を行っている。センターの活動の内容によっては、別途構成員を定め、ワーキングとは別に打ち合わせを行う(例：看護セミナー、就職説明会)。センターの活動は学科と密接に関連しており、毎月の学科会議でも議案に含め検証する。センターの運営委員会では学部と保健看護学科の幹部、臨地臨床実習推進部の運営委員会においては各センターの責任者と関連学部学科の責任者と検証の場を持ち、現状・課題・方針等について意見交換を行う。	
長所・特色 <<箇条書き>> *先駆性や独自性があるもの、有意な成果がみられるもの、他の組織の範となるもの	
項目 No.1120	概ね標準化されたフォーマットによる事故報告書・実習先での会議記録類を都度作成しており、関連する担当者間で供覧した後、事務で保管し閲覧できるようにしている。
項目 No.1120	ワーキング等のメンバーを輪番制とし、一部の教員に負荷が集中せず全ての教員が経験できるよう調整している。
項目 No.1120	実習先の指導者に、職能・経験・資格等に応じ臨床教授・准教授・講師の称号を付与しているが、学科によって偏りがないよう検証・調整等を行っている。
項目 No.1120	
課題事項 <<箇条書き>> *向上すべき点、改善すべき点	
項目 No.1120	学科と実習センターとの間で、組織活動に歪みか生じないよう配慮・調整する。
項目 No.1120	

3. 向上・改善に向けた取り組み

向上・改善に向けた取り組みについて、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて具体的に説明してください。

<向上・改善の進捗状況>

対象年度における取組 *成果の有無を問わない
<ul style="list-style-type: none"> ・打ち合わせ・ワーキング会議が形骸化しないよう、時期・メンバーをフレキシブルに調整している。 ・センターの組織活動の議案を、学科会議でも取り上げている。 ・教育セミナーのアンケートの分析と反映、実習先からの要望等のヒアリングに取り組んでいる。

<今後の向上・改善計画>

項目 No.	課題事項と向上・改善方策 (到達目標を含む)
項目 No.1120	卒業した看護職者からの声を集められる仕組みづくり。
項目 No.1120	センターの組織活動を在学生により知ってもらい、卒業後も連携できるよう図る。
項目 No.1120	ホームページを有効に活用する。

4. 根拠資料

項目 No.	根拠資料 記号	提出区分	根拠資料の名称
項目 No.1120		A	平成29年度 専門実務WG議事録
項目 No.1120		A	平成29年度 運営委員会の議題と議事概要
項目 No.1120		B	実習連絡会議議事録、事故報告書、

提出区分 … A：本シートと一緒に提出する資料 B：現部署で保管

2018 年度(対象年度:2017 年度)自己点検・評価シート

自己評価組織	臨床検査技術教育・実習センター
--------	-----------------

基準 11	大学独自の評価項目
-------	-----------

1. 点検・評価結果 <評定>

自己評価欄に「A：適切に取り組んでいる」「B：概ね取り組んでいる」「C：改善すべき点がある」「D：今後取り組んでいく」の4段階で記入してください。

項目 No.	自己点検・評価項目	自己点検・評価の視点	自己評価
1120	管理運営組織および教育研究組織において、持続的に業務内容の点検を行っていますか。	(1)管理運営組織(センター、事務部等)の設置目的や事務分掌等に則り、持続的に改善・向上の取り組みを行っていますか。 ・年度重点目標の設定	A
		(2)委員会活動の検証 ・開催、および議事録作成に関する手続きは、適切に行っていますか。	A

2. 自己点検・評価

対象年度における組織の状況を自己点検・評価し、その内容を、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて「自己点検・評価項目」毎に具体的に説明してください。

現状、「何を」規定または実施していて、「いつ」「どの会議で(誰が)」「どのように(指標・方法)」検証を行い、「どのように(基準)」自己点検していますか。	
臨床検査技術教育・実習センターの組織活動については、「臨床検査教育委員会」において検証を行っており、平成 29 年度は 5 回開催(構成員 8 名)。学外臨床実習とその準備、事前/事後教育に関する事、実習先と指導者に関する事、教育セミナー、就職、卒業生とのリレーション等について意見交換し、改善策・方針などを決めていく。話し合われた内容は議事録としてまとめられ、出席者全員の確認を経て確定する。 ・臨床検査技術履修コースにおける臨地実習の配置及び実習施設の確保について、随時に開催される臨床検査教育委員会において適正数が確認され、生命医科学科会議へ実習開始前に報告されている。 ・国家試験の全員合格を目指して、補講及び国試模試更にその結果に基づいて、学生への面接などきめ細かな対策を行ったことにより、前年度の合格率 82.6 %が、当該年度 97.1 % と大幅に改善した。	
長所・特色 <<箇条書き>> *先駆性や独自性があるもの、有意な成果がみられるもの、他の組織の範となるもの	
項目 No.1120	臨床検査技術履修コースは選択科目でコース定員は定めていない。現状では、コース前試験の合格者を前提として、希望者全員の受講を認めている。 実習施設先に対して「教育セミナー」として、学びの場を提供(無償)。卒業生の就職先にも効果的に広め、卒後教育にも寄与する。
項目 No.1120	実習先の指導者に対して、職能・経験・資格等に応じ臨床教授・准教授・講師の称号を付与している。
課題事項 <<箇条書き>> *向上すべき点、改善すべき点	
項目 No.1120	選択制で定員を定めていないので、実習生数が毎年増減する。
項目 No.	

3. 向上・改善に向けた取り組み

向上・改善に向けた取り組みについて、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて具体的に説明してください。

<向上・改善の進捗状況>

対象年度における取組 *成果の有無を問わない
<ul style="list-style-type: none"> 臨床検査技師履修コースは、原則希望者全員の履修を認めているので、実習生数の増減による実習先の不足や余剰が例年の懸念となっており、人数制限に関する議論が年々高まっている。 実習指者会議では、活発な意見交換・提案・要望等があり、今後の進め方に有益である。

<今後の向上・改善計画>

項目 No.	課題事項と向上・改善方策 (到達目標を含む)
No.1120	実習生の増減に対する実習先との調整が課題である。また、人数制限に対する検討は、学科だけの問題ではない(と思われる)ので、しかるべき環境で検討する必要があると思われる。

4. 根拠資料

項目 No.	根拠資料記号	提出区分	根拠資料の名称
No.1120		A	平成29年度 臨地臨床実習推進部運営委員会
No.1120		A	平成29年度 臨床検査教育委員会 議事録

提出区分 … A：本シートと一緒に提出する資料 B：現部署で保管

2018 年度(対象年度:2017 年度)自己点検・評価シート

自己評価組織	理学療法実習センター
--------	------------

基準 11 大学独自の評価項目

1. 点検・評価結果 < 評定 >

自己評価欄に「A：適切に取り組んでいる」「B：概ね取り組んでいる」「C：改善すべき点がある」「D：今後取り組んでいく」の4段階で記入してください。

項目 No.	自己点検・評価項目	自己点検・評価の視点	自己評価
1120	管理運営組織および教育研究組織において、持続的に業務内容の点検を行っていますか。	(1)管理運営組織(センター、事務部等)の設置目的や事務分掌等に則り、持続的に改善・向上の取り組みを行っていますか。 ・年度重点目標の設定	B
		(2)委員会活動の検証 ・開催、および議事録作成に関する手続きは、適切に行っていますか。	B

2. 自己点検・評価

対象年度における組織の状況を自己点検・評価し、その内容を、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて「自己点検・評価項目」毎に具体的に説明してください。

現状、「何を」規定または実施していて、「いつ」「どの会議で(誰が)」「どのように(指標・方法)」検証を行い、「どのように(基準)」自己点検していますか。	
理学療法実習センターの組織活動については、定期的(ほぼ月1回)に行う「臨床実習センター会議」において検証を行っており、理学療法士有資格者を中心とした教員によって構成されている。学外臨床実習とその準備、事前/事後教育に関する事、実習先と指導者に関する事、教育セミナー、就職、卒業生とのリレーション等について、他職種の教員間で意見交換し、改善策・方針などを決めていく。話し合われた内容は議事録としてまとめられ、出席者全員の確認を経て確定する。	
長所・特色 <<箇条書き>> *先駆性や独自性があるもの、有意な成果がみられるもの、他の組織の範となるもの	
項目 No.1120	実習先と指導者の多くは、本学卒業生(専門学校含む)あるいは教員の教え子で、実習配置・中間指導・事後教育・トラブル対応等で学科の特徴がある。
項目 No.1120	
課題事項 <<箇条書き>> *向上すべき点、改善すべき点	
項目 No.1120	上記議事録は全構成員にメール添付で配信されるが、個人管理で組織管理しているものではない。
項目 No.1120	事故報告書を教員全員で共有している資料について。

3. 向上・改善に向けた取り組み

向上・改善に向けた取り組みについて、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて具体的に説明してください。

<向上・改善の進捗状況>

対象年度における取組 *成果の有無を問わない
<ul style="list-style-type: none"> ・他学科と合同で就職説明会を数回行ったが、その必要性・実習先からのニーズが見込まれなくなってきたとの判断で、平成29年度より廃止した。但し、今後必要性が見込まれれば再開することもある。 ・指導者会議と教育セミナーを作業療法学科と合同開催としていたが、指導者会議は別時期に行った方が効果的であることが双方の合意で決まり、教育セミナーも独自に行うか検討中である。

<今後の向上・改善計画>

項目 No.	課題事項と向上・改善方策 (到達目標を含む)
項目 No.1120	就職説明会の実施
項目 No.1120	教育セミナーの内容・開催方法・対象 など
項目 No.1120	ホームページによる情報発信
項目 No.1120	事故報告書についての保管場所・方法等

4. 根拠資料

項目 No.	根拠資料記号	提出区分	根拠資料の名称
項目 No.1120		A	平成29年度 専門実務WG議事録
項目 No.1120		A	平成29年度 運営委員会の議題と議事概要
項目 No.1120		B	平成29年度事故報告書

提出区分 … A：本シートと一緒に提出する資料 B：現部署で保管

2018 年度(対象年度:2017 年度)自己点検・評価シート

自己評価組織	作業療法実習センター
--------	------------

基準 11 大学独自の評価項目

1. 点検・評価結果 < 評定 >

自己評価欄に「A：適切に取り組んでいる」「B：概ね取り組んでいる」「C：改善すべき点がある」「D：今後取り組んでいく」の4段階で記入してください。

項目 No.	自己点検・評価項目	自己点検・評価の視点	自己評価
1120	管理運営組織および教育研究組織において、持続的に業務内容の点検を行っていますか。	(1)管理運営組織(センター、事務部等)の設置目的や事務分掌等に則り、持続的に改善・向上の取り組みを行っていますか。 ・年度重点目標の設定	B
		(2)委員会活動の検証 ・開催、および議事録作成に関する手続きは、適切に行っていますか。	A

2. 自己点検・評価

対象年度における組織の状況を自己点検・評価し、その内容を、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて「自己点検・評価項目」毎に具体的に説明してください。

現状、「何を」規定または実施していて、「いつ」「どの会議で(誰が)」「どのように(指標・方法)」検証を行い、「どのように(基準)」自己点検していますか。	
作業療法実習センターの組織活動については、定期的(ほぼ月1回)に行う「作業療法実習センター会議」において検証を行っており、作業療法士有資格者の教員によって構成されている。学外臨床実習とその準備、事前/事後 教育に関すること、実習先と指導者に関すること、教育セミナー、就職、卒業生とのリレーション等について 意見交換し、改善策・方針などを決めていく。話し合われた内容は議事録としてまとめられ、出席者全員の確認を経て確定する。	
長所・特色 <<箇条書き>> *先駆性や独自性があるもの、有意な成果がみられるもの、他の組織の範となるもの	
項目 No.1120	臨床実習は、インターンシップとは違い、就職と密接に連携している。 本学の多くの卒業生が就職している実習施設では、徐々に指導者となり、教育理念等をよく理解しているため臨地実習に成果を挙げてきている。
課題事項 <<箇条書き>> *向上すべき点、改善すべき点	
項目 No.1120	上記議事録は全構成員にメール添付で配信されるが、個人管理で組織管理しているものではない。要検討。
項目 No.1120	実習地訪問報告書及び事故報告書を教員全員で共有しているデータについて。

3. 向上・改善に向けた取り組み

向上・改善に向けた取り組みについて、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて具体的に説明してください。

<向上・改善の進捗状況>

対象年度における取組 *成果の有無を問わない
<ul style="list-style-type: none"> ・他学科と合同で就職説明会を数回行ったが、他学科が退いたため、平成29年度より適当と思われる時期に単独で開催することになった。 ・指導者会議と教育セミナーを理学療法学科と合同開催としていたが、指導者会議は別時期に行った方が効果的であることが双方の合意で決まり、教育セミナーも独自に行うか検討中である。

<今後の向上・改善計画>

項目 No.	課題事項と向上・改善方策 (到達目標を含む)
項目 No.1120	就職説明会の実施
項目 No.1120	教育セミナーの内容・開催方法・対象 など
項目 No.1120	ホームページによる情報発信
項目 No.1120	実習地訪問報告書及び事故報告書についての保管場所・方法等

4. 根拠資料

項目 No.	根拠資料記号	提出区分	根拠資料の名称
項目 No.1120		A	平成29年度 専門実務WG議事録
項目 No.1120		A	平成29年度 運営委員会の議題と議事概要
項目 No.1120		B	実習地訪問報告書及び事故報告書

提出区分 … A：本シートと一緒に提出する資料 B：現部署で保管

2018 年度(対象年度:2017 年度)自己点検・評価シート

自己評価組織	臨床工学実習センター
--------	------------

基準 11	大学独自の評価項目
-------	-----------

1. 点検・評価結果 <評定>

自己評価欄に「A：適切に取り組んでいる」「B：概ね取り組んでいる」「C：改善すべき点がある」「D：今後取り組んでいく」の4段階で記入してください。

項目 No.	自己点検・評価項目	自己点検・評価の視点	自己評価
1120	管理運営組織および教育研究組織において、持続的に業務内容の点検を行っていますか。	(1)管理運営組織(センター、事務部等)の設置目的や事務分掌等に則り、持続的に改善・向上の取り組みを行っていますか。 ・年度重点目標の設定	B
		(2)委員会活動の検証 ・開催、および議事録作成に関する手続きは、適切に行っていますか。	B

2. 自己点検・評価

対象年度における組織の状況を自己点検・評価し、その内容を、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて「自己点検・評価項目」毎に具体的に説明してください。

現状、「何を」規定または実施していて、「いつ」「どの会議で(誰が)」「どのように(指標・方法)」検証を行い、「どのように(基準)」自己点検していますか。	
臨床工学実習センターの組織活動については、ほぼ毎月開催される学科会議で検証されている。 新規実習施設の開拓及び調整に係る多くの部分を客員教員が行っており、ほぼ毎月開催される臨床工学学科会議において、実習施設の必要数について調整・確認されている。	
長所・特色 <<箇条書き>> *先駆性や独自性があるもの、有意な成果がみられるもの、他の組織の範となるもの	
項目 No.1120	客員教員が実習施設の新規開拓及び確保・調整並びに学生配置を行っている。
項目 No.1120	就職先が限定的であるため、学科独自の就職説明会を開催し、実習施設先と在学生の支援
課題事項 <<箇条書き>> *向上すべき点、改善すべき点	
項目 No.1120	臨床実習及び学内実習において、臨床工学技士の資格を有する専門教員が足りない。定年後の特任教員を含めた編成で対応しており、更に臨床実習先へ出向く業務も加わる為、遠方出張・新規開拓等の業務を定年後の実習客員講師に頼らざるを得ない状況が何年も続いている。
項目 No.	

3. 向上・改善に向けた取り組み

向上・改善に向けた取り組みについて、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて具体的に説明してください。

<向上・改善の進捗状況>

対象年度における取組 *成果の有無を問わない
<ul style="list-style-type: none"> ・他県からの入学生が地元での就職を希望する機会が多いため、北陸方面、静岡方面、長野方面の現実習地の訪問と、滋賀方面の新規開拓の為に訪問。 ・アーリーエクスポジチャーの観点から、専門的実習開始前（1～3年）に臨床現場を体験/見学する臨地臨床実習を検討し現場と調整を行った。（ニプロ株における動物の開心術における生命維持装置の操作と周辺業務の見学）結果的に相手企業と調整がつかず実施には至らなかった。

<今後の向上・改善計画>

項目 No.	課題事項と向上・改善方策（到達目標を含む）
No.1120	臨床工学技師の資格を有する専門教員の確保
No.1120	専門的実習（4年生春学期）以前の実習・現場見学の機会が極めて少なく、現場を理解する機会・目的意識モチベーションを維持する機会を増やしたい。

4. 根拠資料

項目 No.	根拠資料記号	提出区分	根拠資料の名称
No.1120		A	平成29年度 臨地臨床実習推進部運営委員会

提出区分 … A：本シートと一緒に提出する資料 B：現部署で保管

2018 年度(対象年度:2017 年度)自己点検・評価シート

自己評価組織	救急救命教育・実習センター
--------	---------------

基準 11	大学独自の評価項目
-------	-----------

1. 点検・評価結果 < 評定 >

自己評価欄に「A：適切に取り組んでいる」「B：概ね取り組んでいる」「C：改善すべき点がある」「D：今後取り組んでいく」の4段階で記入してください。

項目 No.	自己点検・評価項目	自己点検・評価の視点	自己評価
1120	管理運営組織および教育研究組織において、持続的に業務内容の点検を行っていますか。	(1)管理運営組織(センター、事務部等)の設置目的や事務分掌等に則り、持続的に改善・向上の取り組みを行っていますか。 ・年度重点目標の設定	B
		(2)委員会活動の検証 ・開催、および議事録作成に関する手続きは、適切に行っていますか。	B

2. 自己点検・評価

対象年度における組織の状況を自己点検・評価し、その内容を、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて「自己点検・評価項目」毎に具体的に説明してください。

現状、「何を」規定または実施していて、「いつ」「どの会議で(誰が)」「どのように(指標・方法)」検証を行い、「どのように(基準)」自己点検していますか。	
救急救命教育・実習センターの組織活動については、毎月開催される学科会議で検証されている。 救急救命士履修コースにおける実習施設の確保についても、学科会議において適正数を確認している。	
長所・特色 <<箇条書き>> *先駆性や独自性があるもの、有意な成果がみられるもの、他の組織の範となるもの	
項目 No.1120	春日井市消防本部から派遣されている職員が、センター長等と協議のうえ、実習先を開拓し調整を担っている。
項目 No.	
課題事項 <<箇条書き>> *向上すべき点、改善すべき点	
項目 No.1120	救急救命士履修コースは選択性のため、毎年実習生の増減が生じる。平成29年度までは希望者全員の受け入れが可能であったが、年々希望者が増えてきており、学内実習の環境が手狭になってきた。また、学外臨地実習先確保の観点からも、上限を設けるか検討すべき時期が来たと思われる。
項目 No. 1120	指導者(救急救命士資格保有者)が、春日井市より派遣されている職員のみである。

3. 向上・改善に向けた取り組み

向上・改善に向けた取り組みについて、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて具体的に説明してください。

<向上・改善の進捗状況>

対象年度における取組 *成果の有無を問わない
<ul style="list-style-type: none"> 限られた実習用備品・スペース・指導担当教員の状況下で、工夫を凝らし、また自主的なトレーニングを盛り込むことによって対応している。 コースを希望する学生の受け入れと適正数、指導方法、実習先確保と継続等について、担当する教員で随時協議検討している。

<今後の向上・改善計画>

項目 No.	課題事項と向上・改善方策 (到達目標を含む)
項目 No. 1120	実習先を近隣施設にとどまらず、広範囲に開拓し依頼する。
項目 No. 1120	常勤（本学本務）の救急救命士有資格教員が必要かどうかの検討

4. 根拠資料

項目 No.	根拠資料記号	提出区分	根拠資料の名称

提出区分 … A：本シートと一緒に提出する資料 B：現部署で保管

2018 年度(対象年度:2017 年度)自己点検・評価シート

自己評価組織	管理栄養実習センター
--------	------------

基準 11	大学独自の評価項目
-------	-----------

1. 点検・評価結果 < 評定 >

自己評価欄に「A：適切に取り組んでいる」「B：概ね取り組んでいる」「C：改善すべき点がある」「D：今後取り組んでいく」の4段階で記入してください。

項目 No.	自己点検・評価項目	自己点検・評価の視点	自己評価
1120	管理運営組織および教育研究組織において、持続的に業務内容の点検を行っていますか。	(1)管理運営組織(センター、事務部等)の設置目的や事務分掌等に則り、持続的に改善・向上の取り組みを行っていますか。 ・年度重点目標の設定	A
		(2)委員会活動の検証 ・開催、および議事録作成に関する手続きは、適切に行っていますか。	A

2. 自己点検・評価

対象年度における組織の状況を自己点検・評価し、その内容を、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて「自己点検・評価項目」毎に具体的に説明してください。

現状、「何を」規定または実施していて、「いつ」「どの会議で(誰が)」「どのように(指標・方法)」検証を行い、「どのように(基準)」自己点検していますか。	
応用生物学部 食品栄養科学科 管理栄養科学専攻の組織活動については、定期的に行う「管理栄養実習センター 専門実務ワーキング」において検証を行っている。平成 29 年度は 12 回開催した。 臨地臨床実習推進部の運営委員会に於いて、生命健康科学部各学科との情報交換により自己点検・評価に反映させている。	
長所・特色 <<箇条書き>> *先駆性や独自性があるもの、有意な成果がみられるもの、他の組織の範となるもの	
項目 No. 1120	検証機会の一つである「管理栄養実習センター専門実務ワーキング会議」には専攻主任も出席し、学科教育と連携に努めている。また、開催回数も他のセンターと比べて多く、きめ細かく実施している。
項目 No. 1120	他の養成校ではほとんど行っていない「管理栄養科学専攻 臨地実習指導者会議」「中部大学管理栄養教育セミナー」を開設当初から行っている。
課題事項 <<箇条書き>> *向上すべき点、改善すべき点	
項目 No.1120	・愛知県内の多くの養成校が加盟している協議会に非加盟であるため、独自に実習先を開拓する必要がある。定員が 40→80 人に増えていることに対して、徐々に対応可能となっているが、安定した新規実習施設の獲得をしている。そのために、なお引き続き開拓が必要である。 ・他の養成校との競合があり、学生の出身地である他県にも新規開拓を行う等が課題である。

3. 向上・改善に向けた取り組み

向上・改善に向けた取り組みについて、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて具体的に説明してください。

<向上・改善の進捗状況>

対象年度における取組 *成果の有無を問わない
<p>実習先との情報交換等の場である臨地実習指導者会議の出席施設が年々増えてきており、本学の取り組みに理解が深まっているものと思われる。</p> <p>教育セミナーについては、テーマによって出席数が増減している。より魅力的な管理栄養教育セミナーを検討していく。</p>

<今後の向上・改善計画>

項目 No.	課題事項と向上・改善方策（到達目標を含む）
No.1120	実習施設を実習生の増減に対応できるよう、なるべく多く確保する必要がある、担当教員のネットワーク等を活用し新規開拓を行う。教育セミナーも一役担えればと考えている。

4. 根拠資料

項目 No.	根拠資料記号	提出区分	根拠資料の名称
No.1120		A	平成29年度 臨地臨床実習推進部運営委員会
No.1120		A	平成29年度 管理栄養実習センター専門実務WG議事録

提出区分 … A：本シートと一緒に提出する資料 B：現部署で保管

2018 年度(対象年度:2017 年度)自己点検・評価シート

自己評価組織	附属三浦記念図書館
--------	-----------

基準 11 大学独自の評価項目

1. 点検・評価結果 <評定>

自己評価欄に「A：適切に取り組んでいる」「B：概ね取り組んでいる」「C：改善すべき点がある」「D：今後取り組んでいく」の4段階で記入してください。

項目 No.	自己点検・評価項目	自己点検・評価の視点	自己評価
1120	管理運営組織および教育研究組織において、持続的に業務内容の点検を行っていますか。	(1)管理運営組織(センター、事務部等)の設置目的や事務分掌等に則り、持続的に改善・向上の取り組みを行っていますか。 ・年度重点目標の設定	B
		(2)委員会活動の検証 ・開催、および議事録作成に関する手続きは、適切に行っていますか。	B

2. 自己点検・評価

対象年度における組織の状況を自己点検・評価し、その内容を、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて「自己点検・評価項目」毎に具体的に説明してください。

<p>現状、「何を」規定または実施している、「いつ」「どの会議で(誰が)」「どのように(指標・方法)」検証を行い、「どのように(基準)」自己点検していますか。</p> <p>「中部大学附属三浦記念図書館規則」、「中部大学附属三浦記念図書館利用規程」、「中部大学附属三浦記念図書館図書館資料調達及び管理規程」及び、「事務分掌」に則り、図書館運営を行い、日常的に点検、改善を行っている。[1120a] [1120b] [1120c] [1120d]</p> <p>「中部大学附属三浦記念図書館規則」第3条の規定に基づき、中部大学附属三浦記念図書館運営委員会が設置され、「中部大学附属三浦記念図書館運営委員会規程」に基づき会の運営が行われ、図書館運営に関する事項を審議している。新たな取組み、改善事項は図書館運営委員会にて、報告し、承認を受けている。[1120a] [1120e] [1120f]</p> <p>図書館としての「年度の活動計画」は運営委員会で承認を受けているが、その基となる「年度重点目標」が明確化されていない。今後は「年度重点目標」を定め、運営委員会にて検証し、持続的な改善に繋げる仕組みを作ることが重要である。また、図書館の「年度重点目標」を課員の「キャリア開発シート」の目標設定等にも反映できるよう、設定時期も含め検討することが必要である。[1120f]</p> <p>「投書」(根拠資料)や「厚生モニター」等、利用者サイドからの要望、提案を受け、検討、取組みを行っている。[1120g]</p> <p>図書資産管理について、監査法人トーマツより指摘を受け、図書館設置時(1961年度)から資産登録された全図書資料の資産を管理するデータベースの構築を完了し、2016年度末の総資産(冊数・金額)を2017年度図書館運営委員会において報告、承認を得た。2017年12月に監査法人トーマツの監査を受け、このデータベースから抽出された総資産報告を行い、評価を得ている。[1120f] [1120h]</p>
--

図書館改革WG(2016年度)が『学園ビジョン2015-2020実行計画』の「学生の活躍・成長の場を提供」、「図書館共用施設の充実」の観点からまとめ、大学執行部に答申を行った提案事項について、2017年度図書館運営委員会にて報告し、承認を得た。提案事項の1つである図書館サポーター(チャレンジ・サイト課題解決型プロジェクト)について、活動を開始し、学生視点の取組みを行った。[1120f][1120j][1120k][1120l][1120m][1120n][1120r]

内部監査(本監査2015年度、フォローアップ2016年度)において指摘を受けた、定期的な蔵書点検の実施について「中部大学附属三浦記念図書館図書館資料調達及び管理規程細則」を策定し、2017年度図書館運営委員会にて報告、承認を得た。また、細則に則した点検は未実施であるため、点検計画を作成し、2018年度より実施していく予定である。[1120f][1120o][1120p]

図書館運営委員会の開催、議事録作成に関する手続きについては、運営委員長の了承を得て進めているが、起案決裁を行っていないため、今後は委員会運営に係る事項について、適切に手続を行っていく。

長所・特色 《箇条書き》 *先駆性や独自性があるもの、有意な成果がみられるもの、他の組織の範となるもの	
項目 No. 1120	図書館資産管理システムによる図書館資料の資産管理 [1120g][1120i]
項目 No. 1120	図書館改革WGによる改善提案と実施への取組み[1120f][1120j][1120k][1120l][1120m][1120n][1120q]
課題事項 《箇条書き》 *向上すべき点、改善すべき点	
項目 No. 1120	定期的蔵書点検の実施
項目 No. 1120	年度重点目標の明確化
項目 No. 1120	委員会運営の手続きの改善

3. 向上・改善に向けた取組み

向上・改善に向けた取組みについて、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて具体的に説明してください。

<向上・改善の進捗状況>

対象年度における取組 *成果の有無を問わない	
<ul style="list-style-type: none"> ・夏のオープン・ライブラリーについて、より多くの高校生に周知するため早めの広報を行い、利用者増につながった。[1120f][1120r] ・3階照明のLED化について、施設課と連携を図りながら、利用環境の向上につながるよう具体案を作成し実施した。[1120s] ・電子ジャーナルの見直しについて、学部と連携を図りながら、利用が少ないものからより多く利用が見込まれるものに差し替えを行った。[1120t] 	

<今後の向上・改善計画>

項目 No.	課題事項と向上・改善方策(到達目標を含む)
1120	「中部大学附属三浦記念図書館図書館資料調達及び管理規程細則」の第4条に則り、5年を周期とする蔵書点検を2018年度より行う旨を、図書館運営委員会にて諮り、実行計画を作成し、実施する。
1120	年度重点目標について、設定時期も含め、検討を行う。

4. 根拠資料

項目 No.	根拠資 料記号	提出 区分	根拠資料の名称
1120	a	A	中部大学附属三浦記念図書館規則
1120	b	A	中部大学附属三浦記念図書館利用規程
1120	c	A	中部大学附属三浦記念図書館図書館資料調達及び管理規程
1120	d	A	事務分掌(p. 24-25)
1120	e	A	中部大学附属三浦記念図書館運営委員会規程
1120	f	B	2017 年度第 1 回図書館運営委員会議事録
1120	g	B	投書
1120	h	A	2017 年度図書館運営委員会資料_資産統計
1120	i	B	Local CAT 画面
1120	j	A	学園ビジョン 2015-2020 実行計画 (p. 8)
1120	k	A	図書館改革WG活動記録
1120	l	A	図書館改革WG改善の提案や取り組むべき事項 (案)
1120	m	A	業務改革に伴う展開と業務負担増の推測 (初年度)
1120	n	B	チャレンジサイト課題解決型提案書 2017
1120	o	B	内部監査結果報告書
1120	p	B	指摘・提案事項に係る対応状況回答書
1120	q	B	チャレンジ・サイト報告書
1120	r	B	2017 年度活動報告
1120	s	B	LED 化資料
1120	t	B	電子ジャーナル入替えについて

提出区分 … A : 本シートと一緒に提出する資料 B : 現部署で保管

2018 年度(対象年度:2017 年度)自己点検・評価シート

自己評価組織	中部大学民族資料博物館
--------	-------------

基準 11 大学独自の評価項目

1. 点検・評価結果 < 評定 >

自己評価欄に「A：適切に取り組んでいる」「B：概ね取り組んでいる」「C：改善すべき点がある」「D：今後取り組みんでいく」の4段階で記入してください。

項目 No.	自己点検・評価項目	自己点検・評価の視点	自己評価
1120	管理運営組織および教育研究組織において、持続的に業務内容の点検を行っていますか。	<p>(1)管理運営組織(センター、事務部等)の設置目的や事務分掌等に則り、持続的に改善・向上の取り組みを行っていますか。</p> <p>・年度重点目標の設定</p> <p>大学博物館として毎年度、第一に本学における教育・研究支援業務として、重点目標を設定している(学術資料の管理・運用・保存の逐次的目標設定、学生の学芸員資格課程の実習資料の拡充等の目標設定、地域社会貢献のための公開講座設定)、第二に博物館法に則した目標設定(特別企画展の開催、常設展の開催、学術資料の収集・調査・研究、データベース構築)、第三に外部委員会開催を目標とする自己点検・外部評価のための準備設定。第四に、目標設定/達成度評定という視点にとらわれない活動未来像の開発作業。</p>	A
		<p>(2)委員会活動の検証</p> <p>・開催、および議事録作成に関する手続きは、適切に行っていますか。</p> <p>1. 事務レベル =問題—作業起案—稟議・会議—決裁—実行措置</p> <p>2. 学芸会議レベル =課題—課題案—討議—会議録作成—実行措置</p> <p>3. 運営委員会レベル =議題—議題案—報告/審議—議事録作成—実行措置</p> <p>以上の1, 2, 3では、各レベルで実行措置、もしくは目標設定がおこなうことができない事項は上位レベルにあげてゆく。同時に、その際に、適切な目標設定ができたかどうか会議録や議事録で明記される。会議録や議事録とは、そもそも記録ではなく明確かつ適正な目標が提示されたかどうかの公式文書である。</p>	A

		<p>4. 外部委員会レベル =協議題—協議題案—報告／協議 —議事録作成—実行措置</p> <p>この外部委員会のレベルは、1, 2, 3の目標設定の達成度を評価・点検するが、ただし、そうした目標設定のそのものの是非が意味されなければならない。それゆえ、議題も一義的に提示できず、むしろ目標ではなく、新しい目的の提題、そしてそのための目標設定が新たに協議されなければならない。</p>	
--	--	---	--

2. 自己点検・評価

対象年度における組織の状況を自己点検・評価し、その内容を、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて「自己点検・評価項目」毎に具体的に説明してください。

<p>現状、「何を」規定または実施している、「いつ」「どの会議で（誰が）」「どのように（指標・方法）」検証を行い、「どのように（基準）」自己点検していますか。</p>
<p>事務レベルでは、別添の根拠資料「中部大学民族資料博物館の実務概要ガイドライン」に挙げる（1）の職掌に則して、事実的な目標設定とその達成度を日常的に点検している[1120h]。</p> <p>・学芸会議（毎月1～2回程度・定例会議）は、上記ガイドライン（2）の職掌に則し、かつ当館の「中部大学民族資料博物館規程」、および各種の細則や要綱にもとづき、諸課題の確認、達成目標の確定、その改善など、達成度を反復して討議する手続きをとっている[1120a,1120b,1120c,1120d,1120e,1120f]。一例をあげれば、2017年度の企画展「河本礫亭・五郎とシルクロード」では、鑑賞者の理解促進のために、民族資料博物館において制作した企画展図録冊子を関連講演の入場者へ初めて配布、および展示室一般来場者や授業利用の学生等に簡易版を配布、また会場に「ビデオ上映」コーナーを設け、よい反響をえた。</p> <p>学芸会議によるこうした新しい改善目標設定はたえず実施されている[1120i]。ただしアンケート調査などを実施しているものの、実際の評価内容に結びつく調査はまだ試みておらず、今後の課題といえよう[1120m,1120n]。すでに以前より、来場者数のカウント、アンケート調査などにくわえ、スマホ系デバイスを用いた資料解説兼鑑賞者レスポンスなど、新しい方法が必要であろう。</p> <p>達成度の評価は、定量的数量的な統計データに集約されがちである。これについてはすでに批判が多い。たとえば、企画展の入館者数など、ただ右肩上がりに増加すれば達成度評価が高くなる、といった認識は現在、批判されている。しかし、当館の入館者数データについては達成度の不足が顕著で、これは、学内全体への当館活動の認知度の改善など、課題が多い。</p> <p>自己点検・評価のための目標設定とその達成度の定量的データ収集、その統計と分析、解釈は、学芸会議が毎月実施しており、さらにその報告と審議は、運営委員会によって実施されている[1120b,1120j]。</p> <p>・運営委員会は、学芸会議における討議をもとに、議題案を提示し、報告・審議を行っており、自己点検・評価という観点からも、各種催事で回収したアンケート集計結果を分析し、年間の予算計画、催事計画とも照合し、当館の活動の点検・評価を実施しており、いわば、「内部評価」という機能を果たしている。なぜなら運営委員は、本学各学部の教員に委員を委嘱しており、各委員は随時、当館の活動にふれており、そうした日常的な観察と、委員会会議におけるデータとの照合を行うからである。</p> <p>むろん、定量的数量的統計データにとどまらず、教育の現場にいる各委員は、院生・学生へ教育的効果をよく勘案し、新しい目標設定を会議にて随時、提出する場面が多く、その意味でも重要な会議体となっている。その推移からも、当館がさらに各学部もしくは各ゼミへの当館の広報・普及活動を拡充しなければならない認識を強めている。今後、外国の大学博物館にみられるように、本学の学生の卒業論文、院生の修士・博士論文の作成に、当館の学術活動が反映されているかどうか、といった観点も、目標設定に組み入れる必要がある。また学芸員資格課程と実際の院生・学生の就職との相関分析もいずれ取り組まなければならない状況と認識している。</p>

- 外部専門委員会（年1回程度）は、学外の有識者が委員で、まさに外部点検・評価を最大の目的としている。目標設定と達成度のみならず、中部地方における本学、当館の活動の意義という観点から、広義の将来像にかかわる評価をいただいている[1120g,1120k]。ただし、当館として、外部委員にはより多く現場の査察をいただきたく思うが、予算の制約もあり、課題となっている。とくに外部委員の構成員数に関しては、より多くの有識者、行政関係者、教育領域の専門家の参加が必要で、当面の大きな課題と認識している。
- 上記と視点を異にするが、当館の広報活動も重要である。とりわけ大学博物館の機能として、中部・東海地域の高校教員・高校生に、たんに当館の企画展・常設展などの活動にとどまらず、中部大学の先端的な学術活動を紹介する役割も担うと想定している。
 すでに当館の活動については、報告として『年報』（年刊）[1120j]や『連続講演記録集』（年刊）[1120m]、『ニュースレター』（年2回程度発行）[1120q,1120r]、『特別講座受講生制作発表展示記録集』[1120n]、ホームページ催事報告等[1120o,1120p]にて、活動の内容のみならず、入館者数や催事参加者数、また参加者のアンケート、感想などを報告・記載している。
 現代のネットワーク・WEB環境を視野にいとると、当館のホームページの充実と、そのうえでの内容やアクセス数の分析といった点検も必要になろう。上記の一部は紙媒体と同様の報告をすでに当館のホームページ (<https://www3.chubu.ac.jp/museum/printing/他>) で発表しているが、自己点検・評価という視点から、拡充およびその方式の再検討も必要になろう。

長所・特色 <<箇条書き>> *先駆性や独自性があるもの、有意な成果がみられるもの、他の組織の範となるもの

項目 No.1120	<p>外部専門委員会の開催</p> <p>内規にもとづいた「外部専門委員会」（有識者会議）の開催</p> <p>2017年度は秋季の企画展示期間に外部専門委員会を開催し、委員による展示会場の査察を実施した。館全体の活動、施設整備、広報等、将来的な方針、そして目標設定とその自己点検に関して、他大学学長、他館館長、国公立の諸機関における専門教育活動の経験者による助言を得ながら、本学における活動により適した方策について具体的に中長期的な目標設定の改善、点検方式の改定などを協議する。外部専門委員の拡充は必須である。</p>
------------	--

項目 No.1120	<p>年報・ニュースレター刊行、ホームページなどの運用</p> <p>毎年の資料点数、入館者数、団体見学、授業や催事別の利用者数の集計と統計分析を行い、年度ごとの各種の数値の増減を確認する場としている。点検・評価には定量的なデータが不可欠であり、そのための基本作業となっている。こうしたデータの公開性、可視化は評価作業の座標軸となり、不可欠である。また他方で、定量化・数量化できない品質性・価値観などは、とくに大学教育では本質的ゆえ、こうした評価を言語化して記載する作業はきわめて重要かつ不可欠である。</p> <p>催事報告の他、施設整備、収蔵資料の保存対策、広報活動、調査活動等を記録および掲載することで、年度ごとの活動を概観できるようにし、次年度の計画のための検討資料としている。活動の継承性は評価のための基本的観点になる。</p>
------------	---

課題事項 <<箇条書き>> *向上すべき点、改善すべき点

項目 No.1120	<p>寄贈・寄託資料の受入についての審議</p> <p>本学に寄贈・寄託資料の申請を受けた際に、学内における審議の場を運営委員会とは別の組織において公正に判断する組織作りの必要性がある。その対応について学芸会議、および運営委員会、外部専門委員会において検討を続けている。</p> <p>当館の活動理念を再検討し、それにもとづく資料収集を行うことで、本学にとって適切な収蔵資料の価値基準や評価額の基準を設けていきたい。大学における資産評価にも関連する点として、慎重に検討していく。</p>
------------	---

3. 向上・改善に向けた取り組み

向上・改善に向けた取り組みについて、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて具体的に説明してください。

<向上・改善の進捗状況>

対象年度における取組 *成果の有無を問わない
<p>・学芸会議・運営委員会・外部専門委員会の定例開催</p> <p>当館における日常業務から全体の方針計画・目標設定にいたるまで、稟議・討議・審議・協議を明確に運営する。とくに学芸会議における課題案作成と会議録作成は、短期・中期の問題の確認と、活動の目的ならびに目標の設定と達成にかかわる基本的な活動で、会議体としての重要性を確認している。2017年度より新しく学芸会議が当館として設定され、毎月定例（必要に応じて複数回）で開催されることとなった。これは、当館の運営上、きわめて重要な改善である。</p> <p>・館の事務書類の改訂について：書類様式</p> <p>館で取り扱う事務書類について、館の実務状況をみながら、項目表記について必須項目の内容を確認しつつ柔軟に改訂している[1120s]。とくに大学博物館として、本法人内のみならず、学外・外国の大学・研究機関、地方自治体、また法人・個人の資料所蔵者との交渉・資料貸借（「博物館法」にもとづく）は、公式な文書と認知される。この意味で、事務書類の改訂に取り組んでいる。基本的に学外機関を対象とする公式な文書は、学芸会議での承認、もしくは稟議（回議）での了承を受ける館長決裁の起案決裁文書形式をとっている。</p>

<今後の向上・改善計画>

項目 No.	課題事項と向上・改善方策（到達目標を含む）
1120	<p>民族資料博物館は、大学博物館として、本法人の院生・学生・生徒の教育施設として、またわが国の博物館法に準拠する研究機関として活動しているが、大学の組織上では事務組織に属する部署として位置づけられており、教育研究組織とは区分されている。そのためか教育部署と博物館が教育活動で連携する事例は、目下の状況では少ない。</p> <p>例えば、民族資料博物館は、平成25年に「博物館相当施設」指定を愛知県の審査を経て取得しているが、その後の、学内の「博物館学芸員課程」のカリキュラムとは連携が未だとれておらず、当館における「博物館実習」の実現には至っていない。また各学部学科・ゼミとの連携も乏しい。大学にアクティヴ・ラーニングやリアル・プロジェクトが要請される現在、学内外の教育活動のプロジェクトの演習および実習の場として活用されるよう、所蔵資料データベースの構築ほか、より一層の質的向上を図り、学内の教員へ協力を求めながら具体的なプログラム提案をしていく工夫が必要と考えている。</p> <p>以上の基本問題をふくめ、短期・中期的な目標設定（定量的）と目的設定（定性的）に取り組み、その達成度と実現度を評定あるいは評価する取り組みを行いたい。</p>

4. 根拠資料

項目 No.	根拠資料記号	提出区分	根拠資料の名称
1120	a	A	中部大学民族資料博物館規程
1120	b	A	中部大学民族資料博物館運営委員会規程
1120	c	A	中部大学民族資料博物館 管理運営細則
1120	d	A	中部大学民族資料博物館 資料貸出要綱
1120	e	A	中部大学民族資料博物館 寄贈資料受入要綱
1120	f	A	中部大学民族資料博物館 資料評価要綱
1120	g	A	中部大学民族資料博物館内規/外部専門者会議（博物館外部委員会）施行規則
1120	h	A	中部大学民族資料博物館の実務概要ガイドライン
1120	i	B	中部大学民族資料博物館 学芸会議記録
1120	j	B	中部大学民族資料博物館 運営委員会 議事録

1120	k	B	中部大学民族資料博物館 外部専門委員会 議事録
1120	l	A	中部大学民族資料博物館 年報 6 号 https://www3.chubu.ac.jp/museum/printing/
1120	m	A	中部大学民族資料博物館 2015 連続講演記録 (抜粋: 3~6 頁、29 頁)
1120	n	A	中部大学民族資料博物館 平成 29 年度 特別講座 (古典絵画) 受講生制作作品発表 展示記録集 一 模写《鳥獣戯画卷》と作品 一 (抜粋: 1~4、45~51 頁)
1120	o	B	中部大学民族資料博物館 平成 29 年度 特別講座 イベントレポート (WEB) https://www3.chubu.ac.jp/museum/
1120	p	B	中部大学民族資料博物館 平成 29 年度 催事報告 (WEB) https://www3.chubu.ac.jp/museum/report/
1120	q	A	中部大学民族資料博物館 ニュースレター 12 号 https://www3.chubu.ac.jp/museum/printing/
1120	r	B	中部大学民族資料博物館 ニュースレター 13 号 https://www3.chubu.ac.jp/museum/printing/
1120	s	A	中部大学民族資料博物館 様式「寄贈資料申請書」(平成 29 年度改訂版)

提出区分 … A: 本シートと一緒に提出する資料 B: 現部署で保管

2018 年度(対象年度:2017 年度)自己点検・評価シート

自己評価組織	中部大学蝶類研究資料館
--------	-------------

基準 11 大学独自の評価項目

1. 点検・評価結果 < 評定 >

自己評価欄に「A：適切に取り組んでいる」「B：概ね取り組んでいる」「C：改善すべき点がある」「D：今後取り組んでいく」の4段階で記入してください。

項目 No.	自己点検・評価項目	自己点検・評価の視点	自己評価
1120	管理運営組織および教育研究組織において、持続的に業務内容の点検を行っていますか。	(1)管理運営組織(センター、事務部等)の設置目的や事務分掌等に則り、持続的に改善・向上の取り組みを行っていますか。 ・年度重点目標の設定 (1120a) ① 藤岡コレクションの受入・保存 ② 藤岡コレクション公開による教職員、学生などの教育・研究への活用 ③ 藤岡コレクションを用いた展覧会等を通しての社会貢献	A
		(2)委員会活動の検証 ・開催、および議事録作成に関する手続きは、適切に行っていますか。 運営委員会活動 (1120b)(1120c)	B

2. 自己点検・評価

対象年度における組織の状況を自己点検・評価し、その内容を、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて「自己点検・評価項目」毎に具体的に説明してください。

現状、「何を」規定または実施していて、「いつ」「どの会議で(誰が)」「どのように(指標・方法)」検証を行い、「どのように(基準)」自己点検していますか。	
館長を委員長とし実務者で構成する「小委員会」では、年度重点目標、館の運営の状況に関連する事柄などについて、具体的な「議題案」「実施案」を検討し、それを運営委員会に提示し、運営委員会では報告・審議を行っている。そして、その報告・審議結果を受け、小委員会では具体的な活動を実施している。また、自己点検・評価に関しては、運営委員会で承認を得ている。その際には、「企画展示」の際に行った来館者へのアンケートを役立てている。アンケートの集計結果を分析し、その年度の予算計画、展示企画計画とも照合し、年度の活動の点検・評価を実施している。(1120d)(1120e)(1120c)(1120f)(1120g)(1120h)	
長所・特色 <<箇条書き>> *先駆性や独自性があるもの、有意な成果がみられるもの、他の組織の範となるもの	
項目 No.1120	藤岡コレクションの紹介・保存・展示会の実施。バーチャルコーナーの設置・運営(1120g)
項目 No.1120	学外機関(日本蝶類研究所、名和昆虫博物館)の協力を得ての活動体制:「運営委員会(1120i)」
課題事項 <<箇条書き>> *向上すべき点、改善すべき点	
項目 No.1120	目標①関連: 標本のデジタル化を見据えた基本データ構築の推進
項目 No.1120	目標②関連: 教職員、学生などによる藤岡コレクションの教育・研究への活用の推進
項目 No.1120	目標③関連: さらなる展示会内容の充実。来館者の増。地域教育への貢献。

3. 向上・改善に向けた取り組み

向上・改善に向けた取り組みについて、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて具体的に説明してください。

<向上・改善の進捗状況>

対象年度における取組 *成果の有無を問わない
<p>小委員会・運営委員会の審議を経て、以下の取り組みを行った。</p> <p>目標①関連：標本のデジタル化を見据えた基本データ構築のため、受入途中からではあるが、標本作成時において、新たに「シリアルナンバー」を追記することを開始した。(1120j)</p> <p>目標②関連：基本的な問題として、資料館及び標本が名古屋キャンパスにあるため、春日井キャンパスでは認知度が低く活用に結びついていない。今回、夏の企画のチラシを学内各所に設置とともに、展示会の「バーチャルコーナー」を不言実行館内に設け、PR・認知度のアップを試みた。(1120k)(1120g)</p> <p>目標③関連：「企画展示」では、愛知県教育委員会、名古屋市教育委員会、春日井市教育委員会の後援を受けて、名古屋市内の小学校、中学校、高等学校にチラシを送付し、周知した。また、展示会初日に中日新聞社の取材を受けて、新聞記事が掲載されたあと、来館者数増に寄与した。(1120k)(1120l)</p> <p>前年度に引き続きアンケートを実施。今回の展示会について満足度のほか、要望もお聞きする設問を新たに設け、外からのご意見・評価をいただいた。(1120m)(1120h)これに基づき、次回展示に向けた備品等を検討、一部充実を図った。</p>

<今後の向上・改善計画>

項目 No.	課題事項と向上・改善方策 (到達目標を含む)
1120	目標①関連：5年間での移管計画だが、「シリアルナンバー追記」による移管計画の遅れ、及びその対応。また、デジタル化の具体的な計画立案及び予算面の確保
1120	目標②関連：まずは存在を知ってもらうこと。特に本学の学生・教職員の来館者数を伸ばす。
1120	目標③関連：アンケート結果を踏まえた展示の工夫、講演会開催など「解説」の工夫。早めにPRを行ない来館者増を図る。より良い内容にするために、藤岡コレクションを通じての社会貢献の方策のヒントを得るために、企画展示実施時のアンケートを継続する。

4. 根拠資料

項目 No.	根拠資料記号	提出区分	根拠資料の名称
1120	a	A	中部大学蝶類研究資料館規程
1120	b	A	中部大学蝶類研究資料館運営委員会規程
1120	c	B	2017年度第1回中部大学蝶類研究資料館運営委員会議事録
1120	d	A	2017 中部大学蝶類研究資料館運営委員会小委員会名簿
1120	e	B	2017年度第1回中部大学蝶類研究資料館運営委員会小委員会議事録
1120	f	B	2017年度第2回中部大学蝶類研究資料館運営委員会小委員会議事録
1120	g	A	2017夏の展示会リーフレット
1120	h	A	2017夏の展示会アンケート集計結果 (詳細分析資料については「B」)
1120	i	A	2017 中部大学蝶類研究資料館運営委員会名簿
1120	j	B	シリアルナンバーについて
1120	k	A	2017夏の展示会チラシ
1120	l	A	2017夏の展示会新聞記事
1120	m	A	2017夏の展示会アンケート用紙

提出区分 … A：本シートと一緒に提出する資料 B：現部署で保管

2018 年度(対象年度:2017 年度)自己点検・評価シート

自己評価組織	監査室
--------	-----

基準 11 大学独自の評価項目

1. 点検・評価結果 < 評定 >

自己評価欄に「A：適切に取り組んでいる」「B：概ね取り組んでいる」「C：改善すべき点がある」「D：今後取り組んでいく」の4段階で記入してください。

項目 No.	自己点検・評価項目	自己点検・評価の視点	自己評価
1120	管理運営組織および教育研究組織において、持続的に業務内容の点検を行っていますか。	(1)管理運営組織(センター、事務部等)の設置目的や事務分掌等に則り、持続的に改善・向上の取り組みを行っていますか。 ・年度重点目標の設定	A
		(2)委員会活動の検証 ・開催、および議事録作成に関する手続きは、適切に行っていますか。	-

2. 自己点検・評価

対象年度における組織の状況を自己点検・評価し、その内容を、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて「自己点検・評価項目」毎に具体的に説明してください。

現状、「何を」規定または実施していて、「いつ」「どの会議で(誰が)」「どのように(指標・方法)」検証を行い、「どのように(基準)」自己点検していますか。	
毎年度、学内外の状況を勘案して内部監査テーマを検討し、理事長承認を得た上で複数部署を対象に内部監査を実施している。[1006-1120a] 内部監査実施にあたっては、テーマに合わせて事務系管理職に監査担当者を委嘱する方式を採っているため、部長会において定期的に実施状況を報告するとともに、協力依頼を行っている。 [1120b、1120c] また、前年度の内部監査結果の概要と、当該年度の内部監査テーマと監査担当者を『教職員専用』HPに掲載し、幅広く学内の理解を得るとともに、監査担当者が監査を実施しやすい環境づくりを行っている。[1120 d、1120e] なお、監査室が主催する委員会活動はないので(2)については自己評価なし(-)とした。	
長所・特色 <<箇条書き>> *先駆性や独自性があるもの、有意な成果がみられるもの、他の組織の範となるもの	
項目 No. 1120	内部監査実施にあたっては、テーマに合わせて事務系管理職に監査担当者を委嘱し、監査に協力してもらう方式を採っている。内部監査を通じて、監査担当者が他部署の業務を理解するSDの機会ともなっている。
項目 No.	
課題事項 <<箇条書き>> *向上すべき点、改善すべき点	
項目 No. 1120	2017 年度に実施した内部監査テーマのうち1テーマについては実地調査の時間が若干足りなかったため、テーマの内容に応じた柔軟な監査実施計画の立案が必要である。
項目 No.	

3. 向上・改善に向けた取り組み

向上・改善に向けた取り組みについて、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて具体的に説明してください。

<向上・改善の進捗状況>

対象年度における取組 *成果の有無を問わない
毎年度、内部監査業務の実施状況について自己点検を行い、監査の過程で監査担当者あるいは監査対象部署から指摘があった点や、不都合があった点を次年度の改善事項としている。また、毎年4月の部長会では、内部監査業務の質の向上も目的として、前年度の内部監査の実施状況を報告し情報を共有するとともに、次年度の協力依頼を行っている。[1120b]

<今後の向上・改善計画>

項目 No.	課題事項と向上・改善方策（到達目標を含む）
1120	今年度も内部監査業務の実施過程の要所要所で自己点検を行い、改善すべき点を抽出し、来年度以降の円滑な内部監査の実施につなげる計画である。2017年度は、前述のとおり1テーマについて実地監査の時間が若干足りなかったため、反省点を踏まえて今年度以降の実施計画に反映させる予定である。

4. 根拠資料

項目 No.	根拠資料記号	提出区分	根拠資料の名称
1006-1120	a	B	起案書 平成29年度内部監査の実施について
1120	b	A	平成29年4月17日部長会資料 内部監査の実施について
1120	c	A	平成29年10月16日部長会資料 平成29年度内部監査の実施について
1120	d	A	お知らせ 平成28年度内部監査結果の概要について 大学HP https://www2.chubu.ac.jp/faculty_staff/news/detail-3540.html
1120	e	A	お知らせ 平成29年度内部監査の実施について 大学HP https://www2.chubu.ac.jp/faculty_staff/news/detail-3551.html

提出区分 … A：本シートと一緒に提出する資料 B：現部署で保管

2018 年度(対象年度:2017 年度)自己点検・評価シート

自己評価組織	総務課
--------	-----

基準 11 大学独自の評価項目

1. 点検・評価結果 <評定>

自己評価欄に「A：適切に取り組んでいる」「B：概ね取り組んでいる」「C：改善すべき点がある」「D：今後取り組んでいく」の4段階で記入してください。

項目 No.	自己点検・評価項目	自己点検・評価の視点	自己評価
1120	管理運営組織および教育研究組織において、持続的に業務内容の点検を行っていますか。	(1)管理運営組織(センター、事務部等)の設置目的や事務分掌等に則り、持続的に改善・向上の取り組みを行っていますか。 ・年度重点目標の設定	B
		(2)委員会活動の検証 ・開催、および議事録作成に関する手続きは、適切に行っていますか。	B

2. 自己点検・評価

対象年度における組織の状況を自己点検・評価し、その内容を、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて「自己点検・評価項目」毎に具体的に説明してください。

<p>現状、「何を」規定または実施している、「いつ」「どの会議で(誰が)」「どのように(指標・方法)」検証を行い、「どのように(基準)」自己点検していますか。</p> <p>・寄附行為及び管理運営規則に基づく理事会、評議員会及び運営協議会をはじめ、学園の管理運営に資する諸会議並びにバス運行委員会や個人情報保護委員会の事務局を務めた。理事会においては、年度途中に予期せぬ理事の辞任もあったが、後任選定手続や関係機関への届出など遅滞なく行った。また、その他諸会議においては各々の位置づけを明らかにし、議事録作成及び保管などの手続きを適切に行った。</p> <p>・文書取扱規程に定める主管課の総括部署として、規程集などの文書管理を行った。管理運営規則の改正においては、総長の役割を「学園の学事の重要事項を総括する」として明確にすると共に、3名の常勤理事については、人事担当、高大接続、企画調整の役割分担に応じて、総長補佐としての新たな職務を加え、学園の更なる一体的運営に向けた規則改正を行った。また、運営協議会、大学協議会、起案決裁などで改正が承認された際は規程名、改正内容、改正根拠を一元管理し、最新の規程をWEB規程集に掲載するための取り組みを行った。冊子版の規程集については9月配付を目処に最新版を作成し、永年保管分についても適切に保管した。</p> <p>・福利厚生に関する業務において、以下のことに取り組んだ。</p> <p>(1) バスの運行管理・・・不正乗車への対応方法を定め、一定のルールに基づき対応できるようにした。</p> <p>(2) 新穂高山荘・・・複雑だった料金体系を見直し、利用者にとって分かりやすいものとした。</p> <p>(3) 外部福利厚生施設・・・エキシブの一年間の個人利用回数に制限を設け、対象者が公平に利用できるよう改善を行った。</p>	
<p>長所・特色 <<箇条書き>> *先駆性や独自性があるもの、有意な成果がみられるもの、他の組織の範となるもの</p>	
項目 No.1120	<p>本学の WEB 規程集はキーワードや改正日を使って検索を容易にできるなど、他大学と比較しても特色のあるシステムを採用している。</p>

項目	
課題事項	《箇条書き》 *向上すべき点、改善すべき点
項目 No.1120	会議のペーパーレス化について検討中である。
項目 No.1120	文書管理機能の強化について検討中である。

3. 向上・改善に向けた取り組み

向上・改善に向けた取り組みについて、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて具体的に説明してください。

<向上・改善の進捗状況>

対象年度における取組	*成果の有無を問わない
<ul style="list-style-type: none"> ・バスの運行管理においては、運行効率を改善するため、乗車実績に応じたダイヤの見直しを行った。 ・新穂高山荘においては、2017年4月から予約方法を山荘への直接申込、現地精算へ変更し、運用していく中で発生した問題点をつぶさに解決し、軌道に乗せることができた。 	

<今後の向上・改善計画>

項目 No.	課題事項と向上・改善方策 (到達目標を含む)
1120	バスの運行管理・・・老朽化した車両の更新
	新穂高山荘・・・web 予約システムの導入

4. 根拠資料

項目 No.	根拠資料記号	提出区分	根拠資料の名称
1120	a	A	平成 30 年度経営組織諸会議一覧
1120	b	A	H29 規程改正資料
1120	c	A	名鉄バス中部大学線での不正乗車の対応方法について
1120	d	A	新穂高山荘予約方法及び利用料金精算方法の変更について
1120	e	A	福利厚生施設 (エキシブ) の利用上限設定について
1120	f	A	中部大学バス運行委員会議事録 (平成 30 年 1 月 24 日)
1120	g	A	平日ダイヤ改善 (案) について

提出区分 … A : 本シートと一緒に提出する資料 B : 現部署で保管

2018 年度(対象年度:2017 年度)自己点検・評価シート

自己評価組織	人事課
--------	-----

基準 11 大学独自の評価項目

1. 点検・評価結果 < 評定 >

自己評価欄に「A：適切に取り組んでいる」「B：概ね取り組んでいる」「C：改善すべき点がある」「D：今後取り組んでいく」の4段階で記入してください。

項目 No.	自己点検・評価項目	自己点検・評価の視点	自己評価
1120	管理運営組織および教育研究組織において、持続的に業務内容の点検を行っていますか。	(1)管理運営組織(センター、事務部等)の設置目的や事務分掌等に則り、持続的に改善・向上の取り組みを行っていますか。 ・年度重点目標の設定	B
		(2)委員会活動の検証 ・開催、および議事録作成に関する手続きは、適切に行っていますか。	B

2. 自己点検・評価

対象年度における組織の状況を自己点検・評価し、その内容を、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて「自己点検・評価項目」毎に具体的に説明してください。

現状、「何を」規定または実施している、「いつ」「どの会議で(誰が)」「どのように(指標・方法)」検証を行い、「どのように(基準)」自己点検していますか。	
<ul style="list-style-type: none"> ・学園ビジョンに掲げる教職員採用の厳格化を徹底するため、教員人事の調整機能としての教員人事ワーキングの事務局を務めた。 ・大学非常勤講師の無期転換容認制度について、学部長会(平 29.10.25 開催)、学科主任会(平 29.11.15・12.13 開催)にて意見を聞き、制度立案を検討し、平 30.4.1 より実施した。 ・積立年休制度新設、土曜休暇増について、業務懇談会(平 29.12.15 開催)にて従業員代表の意見を聞き、制度立案を検討し、平 30.4.1 より実施した。 	
長所・特色 <<箇条書き>> *先駆性や独自性があるもの、有意な成果がみられるもの、他の組織の範となるもの	
項目 No. 1120	積立年休制度： <ul style="list-style-type: none"> ・政府が掲げる働き方改革への取り組みとして、より柔軟な勤務制度を構築した。 ・介護、子育て世代の教職員にとって、使い勝手の良い制度となるよう、広く意見を取り入れ、法定外の学園独自の休暇制度として立案した。
項目 No. 1120	土曜休暇増： <ul style="list-style-type: none"> ・政府が掲げる働き方改革への取り組みとして、より柔軟な勤務制度を構築した。 ・育児や介護を担う教職員の、仕事と家事との両立をより一層推進するため、また、産官学連携や地域社会への貢献など、これからの大学に求められる多様な活動を実現するための制度として立案した。
課題事項 <<箇条書き>> *向上すべき点、改善すべき点	
項目 No. 1120	積立年休制度、土曜休暇増について、休暇が取得しやすい職場環境作り。
項目 No.	

3. 向上・改善に向けた取り組み

向上・改善に向けた取り組みについて、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて具体的に説明してください。

<向上・改善の進捗状況>

対象年度における取組 *成果の有無を問わない
<ul style="list-style-type: none"> ・教員人事ワーキング事務局において、教員採用に際して、候補者による模擬授業を選考過程に盛り込み、授業スキルも選考基準に取り入れることを試みた。また、よりフレキシブルな勤務に対応できるよう、準専任制度を提案した。その結果、所属学科をこえて広く活躍いただける教員採用の一助になった。 ・恒常的に長時間労働が発生している部署に対する注意喚起（部長会、個別メール）を行った。 ・事務連絡会にて学生休業期間中の休暇取得を促した。

<今後の向上・改善計画>

項目 No.	課題事項と向上・改善方策（到達目標を含む）
1120	<ul style="list-style-type: none"> ・恒常的に長時間労働が発生している部署に対する注意喚起（部長会、個別メール等）。 ・事務連絡会や一斉メール等で休暇取得を促す。

4. 根拠資料

項目 No.	根拠資料記号	提出区分	根拠資料の名称
1120	a	A	人事課 1120a：大学教員採用決定プロセス
1120	b	A	人事課 1120b：無期転換申請の手続について
1120	c	A	人事課 1120c：失効した年次有給休暇の復活、活用制度について（案）
1120	d	A	人事課 1120d：事務職員勤務制度改定（案）
1120	e	A	人事課 1120e：平成 29 年 7 月事務連絡会記録

提出区分 … A：本シートと一緒に提出する資料 B：現部署で保管

2018 年度(対象年度:2017 年度)自己点検・評価シート

自己評価組織	渉外課
--------	-----

基準 11 大学独自の評価項目

1. 点検・評価結果 < 評定 >

自己評価欄に「A：適切に取り組んでいる」「B：概ね取り組んでいる」「C：改善すべき点がある」「D：今後取り組んでいく」の4段階で記入してください。

項目 No.	自己点検・評価項目	自己点検・評価の視点	自己評価
1120	管理運営組織および教育研究組織において、持続的に業務内容の点検を行っていますか。	(1)管理運営組織(センター、事務部等)の設置目的や事務分掌等に則り、持続的に改善・向上の取り組みを行っていますか。 ・年度重点目標の設定	B
		(2)委員会活動の検証 ・開催、および議事録作成に関する手続きは、適切に行っていますか。	C

2. 自己点検・評価

対象年度における組織の状況を自己点検・評価し、その内容を、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて「自己点検・評価項目」毎に具体的に説明してください。

現状、「何を」規定または実施している、「いつ」「どの会議で(誰が)」「どのように(指標・方法)」検証を行い、「どのように(基準)」自己点検していますか。	
<p>< 中部大学幸友会 > 会則に役員会、総会について定め、年に1回、事業、会計に関する事項を役員会において審議した後、総会で承認を受けた上で実施している。実施した事業の成果は総会で報告し、承認を受けている。(1120a)</p> <p>< 中部大学後援会 > ・会則に役員会、評議員会について定め、年に1回、役員会・評議員会を開催し、事業計画等について承認を受けた上で事業を実施している。実施した事業の結果を役員会・評議員会に報告、承認を受けている。(1120b) ・後援会事業の柱である「父母との集い」においては、参加者アンケートを実施し、次年度事業の企画の際、保護者の要望を吸い上げるための材料としている。(1120c・d)</p> <p>< 中部大学音楽祭 > ・学生主体の組織、中部大学音楽祭実行委員会で音楽祭の企画・運営を行っている(通常、年2回開催)。(1120e) ・音楽祭の来場者にアンケートを実施、結果の検証を行い、次年度企画の判断材料としている。(1120f)</p> <p>< キャンパスコンサート > 地域貢献の一環として、プロの演奏家を招いてのコンサートを年2、3回開催している。アドバイザーを置き、事務局と連携して企画・実施しているが、開催結果の検証等、振り返りは行っていない。</p>	
長所・特色 << 箇条書き >> *先駆性や独自性があるもの、有意な成果がみられるもの、他の組織の範となるもの	
項目 No.1120	<p>< 中部大学幸友会 > 平成30年4月30日現在、法人会員826 法人、個人会員429 名 計1255 の会員で構成。会員数は現在も増加を続けており、この規模で産官学連携、採用活動における連携等を行う組織としては全国的に類は無く、先駆的取り組みであると言える。</p>
項目 No.1120	< 中部大学後援会 >

	今では全国の大学で実施されている「父母との集い」は、本学が全国に先駆けて昭和 46 年より実施を始めた企画であり、最大のステークホルダーである保護者の満足度を上げる施策の一つとなっている。
課題事項	《箇条書き》 *向上すべき点、改善すべき点
項目 No.1120	<中部大学幸友会><中部大学後援会> 各種会議の議事録を作成する必要がある。 <キャンパスコンサート> 参加者の要望や動向を確認するためのチェック機能を置く必要がある。 <中部大学音楽祭><キャンパスコンサート> 来場者の年齢層が比較的高めであるので、中高生、大学生の来場者を増やす方を検討する。
項目 No.	

3. 向上・改善に向けた取り組み

向上・改善に向けた取り組みについて、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて具体的に説明してください。

<向上・改善の進捗状況>

対象年度における取組 *成果の有無を問わない
<中部大学幸友会><中部大学後援会> 内部監査で、幸友会および後援会各種会議の議事録を作成していないことについて指摘を受けたため、2018 年度から作成するよう改め、会議で承認された事項について記録としても明確に残すこととした。 <キャンパスコンサート> 来場者にアンケートを実施し、運営についての検証、次回企画のための参考材料とする。 <中部大学音楽祭><キャンパスコンサート> 若年層向けの PR を強化する。

<今後の向上・改善計画>

項目 No.	課題事項と向上・改善方策 (到達目標を含む)
1120	<中部大学幸友会><中部大学後援会> 2018 年 4 月、5 月に開催された会議分から議事録を作成し、部内決裁を受けることとする。 <キャンパスコンサート> 2018 年 6 月 30 日開催分から、来場者アンケートを実施する。 <中部大学音楽祭><キャンパスコンサート> 学園併設校および春日井市内の中学・高校の音楽系クラブに開催案内・招待状を届ける。

4. 根拠資料

項目 No.	根拠資料記号	提出区分	根拠資料の名称
1120	a	A	中部大学幸友会会則
1120	b	A	中部大学後援会会則
1120	c	A	父母との集い (H29 春) アンケート集計結果
1120	d	A	父母との集い (H29 秋) アンケート集計結果
1120	e	A	2017 音楽祭実行委員会議事録 (第 1 回・第 2 回)
1120	f	B	中部大学音楽祭アンケート結果

提出区分 … A:本シートと一緒に提出する資料 B:現部署で保管

2018 年度(対象年度:2017 年度)自己点検・評価シート

自己評価組織	エクステンションセンター
--------	--------------

基準 11	大学独自の評価項目
-------	-----------

1. 点検・評価結果 < 評定 >

自己評価欄に「A：適切に取り組んでいる」「B：概ね取り組んでいる」「C：改善すべき点がある」「D：今後取り組んでいく」の4段階で記入してください。

項目 No.	自己点検・評価項目	自己点検・評価の視点	自己評価
1120	管理運営組織および教育研究組織において、持続的に業務内容の点検を行っていますか。	(1)管理運営組織(センター、事務部等)の設置目的や事務分掌等に則り、持続的に改善・向上の取り組みを行っていますか。 ・年度重点目標の設定	A
		(2)委員会活動の検証 ・開催、および議事録作成に関する手続きは、適切に行っていますか。	A

2. 自己点検・評価

対象年度における組織の状況を自己点検・評価し、その内容を、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて「自己点検・評価項目」毎に具体的に説明してください。

現状、「何を」規定または実施していて、「いつ」「どの会議で(誰が)」「どのように(指標・方法)」検証を行い、「どのように(基準)」自己点検していますか。	
学生・社会人・地域社会を対象に社会貢献を目的と規定し、年に2回実施している「エクステンションセンター運営委員会」で業務に必要な事項を審議・決定し、目的を達成するために実施した事業の報告を行っている。	
長所・特色 <<箇条書き>> *先駆性や独自性があるもの、有意な成果がみられるもの、他の組織の範となるもの	
項目 No.1120	本学が有する「知」を活用することで地域貢献をしている。
項目 No.	
課題事項 <<箇条書き>> *向上すべき点、改善すべき点	
項目 No. 1120	全学的な取り組みに拡大する。
項目 No.	

3. 向上・改善に向けた取り組み

向上・改善に向けた取り組みについて、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて具体的に説明してください。

< 向上・改善の進捗状況 >

対象年度における取組	*成果の有無を問わない
名古屋市内で交通の便が良い所に本学名古屋キャンパスがあり、そこを利用する公開講座の受講者増加を強化している。	

<今後の向上・改善計画>

項目 No.	課題事項と向上・改善方策（到達目標を含む）
1120	引き続きの公開講座等の活性化。

4. 根拠資料

項目 No.	根拠資料記号	提出区分	根拠資料の名称
1120	a	A	中部大学エクステンションセンター規程
1120	a	A	中部大学エクステンションセンター運営委員会規程
1120	b	A	2017年度第1回・第2回運営委員会議事録

提出区分 … A：本シートと一緒に提出する資料 B：現部署で保管